

日本地質学会 *News*
Vol.27 No.9 September 2024



一般社団法人日本地質学会

The Geological Society of Japan

理事

任期：2024年6月8日から2026年総会

会長（代表理事）	山路 敦（京都大学）	笠間友博（箱根町役場）
副会長	杉田律子（科学警察研究所） 星 博幸（愛知教育大学）	加藤 潔（駒澤大学） 香取拓馬（フォッサマグナミュージアム） 金丸龍夫（日本大学） 神谷奈々（京都大学）
常務理事	亀高正男（大日本ダイヤコンサルタント（株））	川村紀子（海上保安庁海上保安大学校）
副常務理事	内野隆之（産業技術総合研究所）	清川昌一（九州大学）
執行理事	岩井雅夫（高知大学） 内尾優子（東京国立博物館） 大坪 誠（産業技術総合研究所） 尾上哲治（九州大学） 加藤猛士（川崎地質（株）） 小宮 剛（東京大学） 坂口有人（山口大学） 高嶋礼詩（東北大学） 辻森 樹（東北大学） 細矢卓志（中央開発（株）） 松田達生（工学気象研究所） 山口飛鳥（東京大学大気海洋研究所） 矢部 淳（国立科学博物館）	桑野太輔（京都大学） 小松原純子（産業技術総合研究所） 齋藤 眞（産業技術総合研究所） 佐々木和彦（佐々木技術士事務所） 澤 燦道（東北大学） 沢田 健（北海道大学） 沢田 輝（富山大学） 下岡和也（関西学院大学） 菅沼悠介（国立極地研究所） 高野 修（石油資源開発（株）） 田村嘉之（千葉県環境財団） 中澤 努（産業技術総合研究所） 西 弘嗣（福井県立大学） 野田 篤（産業技術総合研究所） 広瀬 亘（北海道立総合研究機構） 松田博貴（熊本大学） 道林克禎（名古屋大学） 矢島道子（東京都立大学） 山本啓司（鹿児島大学） 和田穰隆（奈良教育大学）
理事	青矢睦月（徳島大学） 天野一男（東京大学空間情報科学研究センター） 磯崎行雄（東京大学） 大友幸子（山形大学） 岡田 誠（茨城大学）	

監事

任期：2024年6月8日から2028年総会

岩部良子（応用地質（株））
山本正司（山本司法書士事務所）



一般社団法人日本地質学会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15 井桁ビル
電話 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156（振替口座 00140-8-28067）
e-mail: main@geosociety.jp ホームページ <http://geosociety.jp>

日本地質学会 *News*

Vol.27 No.9 September 2024

The Geological Society of Japan News

一般社団法人日本地質学会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル 6F

編集委員長 松田達生

TEL 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156

main@geosociety.jp (庶務一般)

journal@geosociety.jp (編集)

http://www.geosociety.jp

Contents

2025年度一般社団法人日本地質学会各賞候補者募集について……2

表彰制度の変更について/一般社団法人日本地質学会各賞選考規則/
一般社団法人日本地質学会各賞選考委員会規則

CALENDAR……4

各賞・助成……5

山田科学振興財団2025年度海外研究援助募集/中谷医工計測技術振興財団【科学教育振興助成】【次世代系人材育成プログラム助成】募集/2024年度「第45回猿橋賞」募集

公募……5

山梨県火山防災職 再募集/原子力規制委員会行政職員(技術系・事務系及び研究職)の公募/深田地質研究所 2024年度任期付研究員募集/2025年度産総研イノベーションスクール人材育成コース公募

紹介……7

変動帯の文化地質学 鈴木寿志ほか編(原田憲一)/6億年前、地球に巨大大陸があったーゴンドワナランドの集合・分裂とアジア大陸の成長 吉田 勝著(有馬 眞)

博物館・ジオパークで地球を学ぼう! (33) ……9

アボイ岳ジオパークビジターセンター(加藤聡美)

支部コーナー……11

関東支部:家族巡検「葛生化石館と周辺の石灰岩の見学」のお知らせ/講演会「県の石ー東京都の岩石・鉱物・化石ー」のお知らせ(第二報)

表紙紹介……12

第15回惑星地球フォトコンテスト:日本地質学会会長賞「空撮で捉えた付加体の覆瓦構造」(木村克己)

地質学雑誌:論文が公開されています……13

学会記事……14

2024年度第1回執行理事会議事録

2024年度第2回執行理事会議事録

2024年度第3回執行理事会議事録

巻末 会費口座振替依頼書

印刷・製本:日本印刷株式会社 東京都豊島区東池袋4-41-24

2025年度一般社団法人日本地質学会各賞候補者募集について

日本地質学会では今年も運営規則第16条および各賞選考規則（本号別途掲載）に基づき、下記の賞の候補者を募集いたします。ご推薦いただいた方の中から、各賞選考委員会が候補者を選考し、理事会での決定、総会での承認を経て表彰を行います。

各賞の内容や候補者の条件、推薦にあたってご用意していただく書類については、運営規則第16条および各賞選考規則をご参照ください。応募に際して、所定の様式がある場合がございます。また、論文賞・研究奨励賞・地質学雑誌特別賞の対象論文リストもございます。地質学会のホームページ（<http://www.geosociety.jp/>）をご覧ください。または学会事務局までお問い合わせください。

上記をご参照の上、各賞選考委員会（学会事務局）あてに期日厳守にてご推薦ください。個人（正会員または名誉会員）からの推薦も可能です。

郵送、e-mail送信のいずれでも受け付けますが、なるべく電子ファイルでの提出をお願いします。推薦者には受け取りの連絡を差し上げます。

なおご推薦にあたっては、被推薦者が常日頃から学会倫理綱領・行動規範やその他の法令および社会通念上守るべきルールを遵守しているかについて推薦者には十分にご留意いただき、授賞に相応しい方をご推薦いただきますようお願い申し上げます。

応募の締め切りは各賞とも、2024年12月2日（月）必着です。

送付先：〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6F
一般社団法人日本地質学会各賞選考委員会
TEL：03-5823-1150, e-mail：main@geosociety.jp

2024年9月
一般社団法人日本地質学会
各賞選考委員会
委員長 沢田 健

表彰制度の変更について

昨年度の各賞選考委員会および各賞選考検討委員会の引き継ぎ・要望事項を踏まえて、表彰制度検討WGおよび執行理事会で検討した結果、表彰制度に関連して以下の修正を加えることとなりました。

『各賞選考規則』および『各賞選考委員会規則』の改正内容

- ・『各賞選考委員会規則』から役職指定に関する記載を削除しました。
- ・委員は全て理事会推薦とし、人数は15名としました。
- ・『各賞選考規則』の推薦文の文字数を「400字程度」から「800字以内」に変更しました。
- ・『各賞選考規則』および『各賞選考委員会規則』から、Island Arc Awardに関する記載を削除しました。
- ・『各賞選考規則』の「国際賞」を「都城秋穂賞」に変更しました。
- ・その他、体裁などの修正を行いました。

改正した各賞選考規則および各賞選考委員会規則を本報告の末尾に添付します（改正した箇所をアンダーラインで示します）。

今後の改正のお知らせ（予告）

来年春頃に、再度『各賞選考規則』の改正を予定しています。改正内容は以下の2点です。

- (1) 博士号取得者の多くが3月に学位を取得することから、対象期間が最大限活用されるように、小澤儀明賞および柵山雅則賞の対象を、「募集開始年の9月末日で博士号取得から5年以内の正会員」から「募集開始年の3月1日で博士号取得から5年以内の正会員」に変更します。
- (2) 学年による差をなくするため、「研究奨励賞」および「フィールドワーク賞」の受賞資格を、「募集開始年9月末日で満32才未満の会員」から「募集開始年4月1日で満32才未満の会員」に変更します。

この改正によって不利益を被る会員もいることから、半年間の周知期間を経たのち規則の改正を行うこととします。

2024-2025年度の各賞選考委員会の委員の決定

上述のとおり改正された各賞選考委員会規則に従って、理事の互選による15名の委員を理事会にて決定しました。任期は2024年8月31日から2026年総会までの約2年間です。今年度の各賞選考委員長は沢田 健氏（北海道大）が就任いたします。なお、委員の名簿は2年目の選考が終了するまで公開しないことと致しますのでご了承ください。

一般社団法人日本地質学会各賞選考規則

(目的)

1. 本規則は、一般社団法人日本地質学会（以下地質学会という）運営規則第16条3項に基づき地質学会の各賞選考に関する手続きを定める。

(選考)

2. 各賞の選考は、理事会のもとにおかれる各賞選考委員会が行う。各賞選考委員会については別途定める。

(各賞の選考対象および応募方法等)

3. 日本地質学会賞の選考対象および応募方法は次のとおりとする。

- 1) 対象：正会員および名誉会員。ただし、過去において本賞を受けていない者。
- 2) 応募方法：正会員、名誉会員、支部および専門部会による推薦。自薦も可とする。所定の様式による。

4. 日本地質学会功績賞の選考対象および応募方法は次のとおりとする。

- 1) 対象：正会員および名誉会員。ただし過去において本賞を受けていない者。
- 2) 応募方法：正会員、名誉会員、支部および専門部会による推薦。自薦も可とする。所定の様式による。

5. 日本地質学会都城秋穂賞の選考対象および応募方法等は次のとおりとする。

- 1) 対象：正会員および非会員。ただし、過去において本賞を受けていない者。
- 2) 応募方法：正会員、名誉会員、支部および専門部会による推薦。所定の様式による。
- 3) 日本地質学会都城秋穂賞の授与は毎年度1名以内とする。

6. 日本地質学会H. E. ナウマン賞の選考対象および応募方法は次のとおりとする。

- 1) 対象：募集開始年の9月末日で満50歳未満の正会員。ただし、過去において本賞を受けていない者。
- 2) 応募方法：正会員、名誉会員および専門部会による推薦。自薦も可とする。所定の様式による。

7. 日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞の選考対象および応募方法等は次のとおりとする。

- 1) 対象：募集開始年の9月末日で博士号取得から5年以内の正会員。ただし、過去において本賞を受けていない者。
- 2) 応募方法：正会員、名誉会員および専門部会による推薦。自薦も可とする。所定の様式による。
- 3) 賞の名称は、受賞する研究のテーマによって各賞選考委員会が定める。

8. 日本地質学会論文賞の選考対象および応募方法は次のとおりとする。

- 1) 対象：募集開始年9月までの過去5年間に地質学雑誌およびIsland Arcに発表された、会員が筆頭の論文。
- 2) 応募方法：正会員および名誉会員、専門部会による推薦。800字以内の推薦文を添付すること。

9. 日本地質学会小藤文次郎賞の選考対象および応募方法は次のとおりとする。

- 1) 対象：募集開始年9月までの過去5年間に重要な発見または独創的な発想を含む論文を発表した会員。
- 2) 応募方法：正会員および名誉会員、専門部会による推薦。800字以内の推薦文を添付すること。

10. 日本地質学会地質学雑誌特別賞の選考対象および応募方法は次のとおりとする。

- 1) 対象：募集開始年9月までの過去5年間に地質学雑誌に

発表された、会員が筆頭のレター、ノート、報告、講座。

- 2) 応募方法：正会員および名誉会員、専門部会による推薦。800字以内の推薦文を添付すること。

11. 日本地質学会研究奨励賞の選考対象および受賞資格、応募方法は次のとおりとする。

- 1) 対象：募集開始年9月までの過去3年間に地質学雑誌およびIsland Arcに発表された論文のうち、募集開始年9月末日で満32才未満の会員が筆頭の論文。
- 2) 受賞資格：筆頭著者および募集開始年9月末日で満32才未満の共著の会員。ただし、過去において本賞を受けていない者とする。
- 3) 応募方法：正会員および名誉会員、専門部会による推薦。800字以内の推薦文を添付すること。

12. 日本地質学会フィールドワーク賞の選考対象および受賞資格、応募方法は次のとおりとする。

- 1) 対象：募集開始年9月までの過去3年間に発表された、フィールドワークに重点を置いた論文。募集開始年9月末日で満32才未満の会員が筆頭ののものに限る。
- 2) 受賞資格：筆頭著者および募集開始年9月末日で満32才未満の共著の会員。ただし、過去において本賞を受けていない者とする。
- 3) 応募方法：正会員および名誉会員、専門部会による推薦。800字以内の推薦文を添付すること。

13. 日本地質学会学生優秀発表賞の選考対象は次のとおりとする。

- 1) 各賞選考委員会を対象と定めた講演会における、学生会員が筆頭の発表。

14. 日本地質学会ジュニアセッション優秀賞・奨励賞の選考対象は次のとおりとする。

- 1) ジュニアセッションにおける高校生以下の生徒またはグループによる発表。

15. 日本地質学会表彰の選考対象および応募方法は次のとおりとする。

- 1) 対象：会員および非会員の個人、団体または機関。
- 2) 応募方法：正会員、名誉会員、支部または専門部会による推薦、所定の様式による。

(応募に関する告示)

16. 各賞の応募に関する告示は、応募締め切り期日の3カ月前までにNews誌、Webサイト等で行う。

(選考結果の記録と報告)

17. 各賞選考委員会は、選考過程と選考結果について文書で理事会に報告する。

(規則の変更)

18. 本規則の変更は理事会の議決による。

附 則

- ・本規則は、2009年9月3日から施行する。
- ・2011年4月2日 一部改正
- ・2012年4月7日 一部改正
- ・2013年5月18日 一部改正
- ・この改正は、2021年7月1日から施行する。ただし、8. に定める日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞、および12. に定める日本地質学会研究奨励賞に関する規定は、2022年7月1日から施行する。施行前の選考は、なお従前の例による。
- ・2021年4月3日 一部改正
- ・2022年4月9日 一部改正

- ・2022年12月10日 一部改正
- ・2024年8月31日 一部改正

一般社団法人日本地質学会各賞選考委員会規則

(目的)

1. 一般社団法人日本地質学会（以下地質学会という）各賞選考規則第2項に基づき、本規則を定める。

(委員の構成および選出)

2. 各賞選考委員会（以下選考委員会という）は、理事会が推薦する15名の委員で構成する。
 - 1) 委員は専門を考慮して理事の互選により選出し、委員長はこの委員間の互選とする。
 - 2) 委員の任期は2年とする。

(選考検討委員会等の設置)

3. 選考委員会は、日本地質学会賞、日本地質学会功績賞、日本地質学会都城秋穂賞、日本地質学会H. E. ナウマン賞ならびに日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞の選考に関しては、選考委員会のもとに随時、選考検討委員会を設置して諮問することができる。
4. 日本地質学会賞、日本地質学会功績賞、日本地質学会都城秋穂賞、日本地質学会H. E. ナウマン賞ならびに日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞の選考を行う選考検討委員会は、前・現地質学会長、および過去の日本地質学

会賞受賞者から専門を考慮して執行理事会が推薦する8名程度の委員で構成し、必要に応じて執行理事会が推薦する若干名の委員を追加することができる。委員長は委員間の互選とする。

5. 選考委員会は、学生優秀発表賞、ジュニアセッション優秀賞・奨励賞の選考に関して、随時、選考委員を任命し、その意見を選考の参考にすることができる。

(利益相反)

6. 選考委員会委員ならびに選考検討委員会委員が受賞候補対象者となった場合、または委員と候補者の関係が深い（親族、共同研究者、研究指導者など）と判断される場合は、地質学会利益相反防止規則に基づいて、該当する賞の選考には一切関与しないこととする。これによって減数した委員の補充は行わない。

附則

- ・本規則の変更は理事会の議決による。
- ・本規則は、2009年9月3日から施行する。
- ・2011年4月2日 一部改正
- ・2020年9月12日 一部改正
- ・2021年4月3日 一部改正
- ・2022年4月9日 一部改正
- ・2022年12月10日 一部改正
- ・2024年8月31日 一部改正

CALENDAR

2024.10～

地球科学分野に関する研究会、学会、国際会議、などの開催日、会合名、開催学会、開催場所をご案内致します。会員の皆様の情報をお待ちしています。

★印は学会主催、(共)共催、(後)後援、(協)協賛。

2024年

10月 October

東京地学協会2024年度定期講演会

「硝酸性窒素による地下水汚染問題の過去・現在・未来」

10月5日(土) 14:00～16:15 (申込不要)
 場所：地学会館2階講堂 (千代田区二番町)
 講師1：林健太郎 (総合地球環境学研究所)
 「窒素問題に対する世界の取り組みとその地下水硝酸性窒素汚染への影響」/講師2：羽賀清典 (畜産環境整備機構)「家畜排せつ物処理と地下水の硝酸性窒素汚染」
<http://www.geog.or.jp/>

令和6年度日本応用地質学会研究発表会

10月9日(水)～12日(土)
 会場：レクザムホール (香川県県民ホール) (高松市玉藻町9-10)
<https://www.jseg.or.jp/index.html>

2024年度日本火山学会秋季大会 (学術講演会)

10月16日(水)～18日(金)
 会場：道立道民活動センター「かでの2・7」(札幌市中央区：予定)
<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/J/index.html>

ぼうさいこくたい2024

10月19日(土)～20日(日)
 場所：熊本城ホール、熊本市国際交流会館、花畑広場
 参加無料、一部オンライン配信予定
<https://bosai-kokutai.jp/2024/>

第41回地質調査総合センターシンポジウム

デジタル技術で繋ぐ地質情報と防災対策～活断層・火山・斜面災害・海洋地質～
 10月25日(金) 10:00～17:00
 会場：イイノホール&カンファレンスセンター (東京都千代田区内幸町)
 定員：現地200名+オンライン500名
 参加費無料、事前登録制
<https://www.gsj.jp/researches/gsj-symposium/sympo41/index.html>

★若手巡検・研究集会 in 愛知県-岐阜県

10月26日(土) 9時集合、18時半解散
 対象者：35歳以下の日本地質学会正会員
 詳しくは、<https://geosociety.jp/science/>

content0128.html

11月 November

国際 Gondwana 研究連合 (IAGR) 2024年総会及び第21回 Gondwana からアジア国際シンポジウム

11月18日～22日
 場所・会場：マレーシア、クチンの Water Front Hotel
 参加登録及び発表要旨提出先：iagr2024@curtin.edu.my
 問合せ：Prof. Nagarajan Ramasamy
 E-mail: nagarajan@curtin.edu.my

【JST】2025年度 ASPIRE 日蘭共同研究提案募集に向けたネットワーキングイベント

11月25日(月)～27日(水)
 参加対象者：日蘭共同公募「革新的な情報処理技術のための日蘭共同研究」に関心のある研究者
https://www.jst.go.jp/aspire/event/event_aspire2025_nl.html

12月 December

地質学史懇話会

12月21日(土) 13:30-17:00
 場所：北とびあ 806号室 (東京都北区王子) 八耳俊文：マンハッタン計画と水俣病一戦後 20年日本地球化学史
 黒田和男：感銘を受けた授業—東中秀雄先生 問い合わせ：矢島道子 pxio2070@nifty.com

各賞・研究助成



山田科学振興財団2025年度 海外研究援助募集

趣旨：若手・中堅研究者が海外の大学や研究機関等に一定期間（1か月～1年間）滞在して基礎自然科学を主題とする共同研究を実施するために必要な経費を助成し、これによって新しい研究の方向性を見つけた研究者とその研究に興味を持つ海外研究機関等との国際交流を活発化することを目指します。

また、個人の研究だけではなく、グループで行う研究も援助の対象とするともに、多様な視点や発想を取り入れ、研究活動を活性化し、想像力を発揮する研究者を積極的に支援するため、当財団は、女性の活躍と多様性を尊重します。

※2025年4月1日～2026年3月31日に出発予定の方を対象とします。

公募課題：研究内容としては、自然科学の基礎研究を主題とする内容であって、既成の物理学、化学、生物学（基礎医学を含む）の学術体系を革新し、新たな視座から学問領域を切り拓く可能性のある学際研究や、新たに異分野に挑もうとする研究を重視します。特に、若手研究者、女性研究者、これまでに山田研究会への参加や当財団からの援助を受けた研究者、大学院生や若手研究者が積極的に参加する研究グループからの応募を歓迎します。ただし、申請は個人・グループで行う挑戦的・独創的な基礎研究を対象としています。臨床医学のポスドク留学など、実用・応用志向研究の渡航は対象となりませんので留意してください。審査においては、挑戦的・独創的研究、新規研究グループで実施する研究を重視します。

援助金額：個人A：100万円/件上限、個人B：200万円/件上限、グループ：200万円/件上限
※採択件数は、個人・グループに関わらず10件程度（女性研究者2名以上を含む）を予定しています。

応募締切日：2024年10月31日（木）

学会推薦：不要

問い合わせ先：公益財団法人 山田科学振興財団 事務局 応募担当

〒544-8666 大阪市生野区巽西1-8-1

ロート製薬株式会社本社内

TEL: 06-6758-3745 FAX: 06-6758-4811

E-mail: apply@yamadazaidan.jp

URL: <http://www.yamadazaidan.jp/>

詳しくは、https://yamadazaidan.jp/requirements/grant-bosyu_kaigai/

日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内致します。

中谷医工計測技術振興財団 【科学教育振興助成】【次世代系 人材育成プログラム助成】募集

【科学教育振興助成】

子どもたちの論理的思考力や創造性の成長を促すため、小学校、中学校、高等学校等における科学教育振興を目的とした取り組みに対して助成しています。

○募集期間：2024年10月1日～11月30日（期日厳守）

【個別校助成】最大30万円/年×1年間

【複数校連携助成】最大100万円/年×2年間（最大計200万円）

【教員支援助成】最大100万円/年×3年間（最大計300万円）

詳細及びご応募方法は中谷財団HPよりご確認ください。

https://www.nakatani-foundation.jp/business/grant_science_edu/

【次世代系人材育成プログラム助成】

将来科学技術分野で活躍する人材を育てることを目的に、優れた資質を持つ中学生を発掘して伸長するプログラムに対して助成しています。

○募集期間：2024年10月1日～11月20日（期日厳守）

○応募資格：全国の国公立大学・高等専門学校（主実施機関）

○助成金額：最大500万円/年×最長5年間（最大計2500万円）

詳細及びご応募方法は中谷財団HPよりご確認ください。

https://www.nakatani-foundation.jp/business/grant_science_edu/next-generation_science/

公益財団法人 中谷医工計測技術振興財団

事務局 松井志摩子

<神戸分室>

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1

IHDビル5F

TEL: 078-241-5705, FAX: 078-241-5706

e-mail: sci-edu@nakatani-foundation.jp

URL: <https://www.nakatani-foundation.jp/>

2024年度「第45回猿橋賞」 募集

「女性科学者に明るいま未来をの会」は、「女性科学者のおかれている状況が必ずしも望ましくない中で、一条の光を投げ、いくらかでも彼女らを励まし、自然科学の発展に貢献できるように支援する」という願いをこめ、1980年に創立されました。この創立の趣旨を継承し、当会は、毎年、自然科学の分野で顕著な

業績を収めた女性科学者に賞（猿橋賞）を贈呈しています。賞の選考は、研究の独創性の高さ、発想のユニークさや、今後さらに大きく飛躍できるポテンシャルの高さ、研究分野の発展への貢献度、国際性等の多様な観点を考慮して実施します。また、受賞者が日本国内の若手研究者や、研究者を目指す次世代の担い手の育成に貢献し今後も活躍していただけることを強く期待しています。

対象：創立の趣旨に沿って、多様な自然科学の分野で優れた研究業績を収めている女性科学者（ただし、下記の推薦締切日で50才未満の人）

表彰内容：賞状、副賞として褒賞金（50万円）、1件（1名）

応募方法：推薦書は、当会のホームページ <https://saruhashisho.wordpress.com/> からダウンロードしたワードファイルに記入した後、PDF形式で保存してください。

送付先：saruhashi.office@saruhashisho.jp

推薦書（PDFファイル）にはパスワードを付け、添付資料のPDFファイルと一緒に送付してください。推薦書のパスワードは別送付してください。

締切：2024年11月30日（必着）

募集要項等は下記HPをご確認ください。

<https://saruhashisho.wordpress.com/>

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては、採用結果をお知らせいただけますようお願い致します。



山梨県火山防災職 再募集

山梨県では現在、富士山火山防災対策の各種計画、防災訓練、研修会等に関する企画立案及び運営業務に従事する【火山防災職】を次の通り再度募集しています。

試験職種及び採用予定人数：火山防災〔大学院卒程度〕1名

受験資格：平成元年4月2日以降に生まれた者で、学校教育法に基づく大学院において、火山関係の科目を専攻し、修士課程若しくは博士課程を修了した者又は令和7年3月31日までに修士課程若しくは博士課程を修了見込みの者であって、火山研究、火山に関するフィールド調査及び火山に関する社会防衛的な知識などを有する者

試験日：令和6年10月26日（土）、27日（日）

試験会場：山梨県庁防災新館（山梨県甲府市丸の内1丁目6-1）

申込期間：令和6年8月28日（水）～9月24日（火）

問い合わせ先：山梨県防災局防災危機管理課
防災企画担当 副主査 中島光紘
〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1-6-1 (防災
新館4F)
TEL：055-223-1590 (内線2551)
FAX：055-223-1429
E-mail <mailto:nakajima-akty@pref.yamanashi.lg.jp>
詳細は下記ホームページをご確認ください。
<https://www.pref.yamanashi.jp/bousai/kazannbousaishoku.html>

原子力規制委員会行政職員 (技術系・事務系及び研究職) の公募

原子力規制委員会では現在、原子力規制行政の充実・強化を図るため、規制基準への適合性審査、原子力施設の検査等を行う職員を募集しております。職務内容や勤務条件等の詳細については以下の原子力規制委員会HPに掲載しております。

●技術系・事務系

技術系 (安全審査官/原子力検査官/核物質防護対策官及び核物質サイバーセキュリティ対策官/原子力防災専門官/査察官/放射線防護分野業務/放射線モニタリング業務/放射性同位元素等の規制に関する業務/情報システムに関する事務/東京電力福島第一原子力発電所事故の対策・調査業務/国内外の知見の収集及び技術基準への反映に関する業務/火災対策に関する業務/原子力規制に係る人材育成業務)

事務系 (訴訟対応/一般行政事務に関する業務) の公募

●研究職

技術研究・調査 (システム安全関係/シビアアクシデント関係/地震・津波関係)

応募受付期間：2024年9月2日 (月)～10月31日 (木)

ご不明な点などございましたら、お気軽に原子力規制委員会原子力規制庁長官官房人事課行政職員 (実務経験者) 採用担当 (jitsumukeiken2023@nra.go.jp) までご連絡ください。

原子力規制委員会 原子力規制庁
人事課 採用担当 池田 美紀
〒106-8450
東京都港区六本木1-9-9 六本木ファーストビル9F
TEL：03-5114-2104 (代表) 内線4776
FAX：03-5114-2174
E-mail：ikedamiki_ym8@nra.go.jp

深田地質研究所 2024年度任期付研究員募集

目的：深田研は、地質学や地球物理学等を基盤とする地球科学の研究を進めています。この分野で深田研の将来を担う若手研究者に研究活動の場を提供するとともに、深田研が行っている公益事業を将来にわたって継続、発展させる体制を整えることを目指しています。そのための研究員を募集します。

任期：2027年3月末まで採用後の職務の実績によっては、任期のない職員 (研究職) となることできる。

募集対象：地球科学に関連する理学・工学分野の研究者。

募集人員：若干名。

応募資格：博士の学位を有する者または採用時まで取得見込みの者。

応募期限：2024年10月31日 (当日消印有効)。

詳細は以下の深田地質研究所ホームページを参照のこと

https://fukadaken.or.jp/?page_id=8420

問い合わせ先：

公益財団法人 深田地質研究所 担当：横山
〒113-0021 東京都文京区本駒込2丁目13番12号

E-mail：fgi_researcher@fgi.or.jp

2025年度産総研 イノベーションスクール 人材育成コース公募

「イノベーション人材育成コース」は、博士号取得者 (募集時取得見込みの方を含む) を対象とした1年間のコースです。期間中は産総研特別研究員 (第1号契約職員、ポストドクター) として雇用されます。高度で専門的な知識と技能を活かしつつ社会の様々な課題に挑戦してイノベーションを起こす研究者となることを目指して、ユニークな講義・演習、協力企業での長期研修、産総研での最先端研究に取り組んでいただきます。

応募職種：産総研特別研究員 (ポストドク)

任期：2025年4月1日から2026年3月31日

内容：産総研での研究、講義への出席、企業研修 (2ヶ月程度)

採用人数：20名程度

応募資格：博士学位を有する者 (2025年3月末までに博士号取得見込みの者も含む)

募集締切：2025年1月6日 (月) 14:00

問い合わせ先：

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
イノベーションスクール事務局 (募集担当)

メール：school-saiyou-ml@aist.go.jp

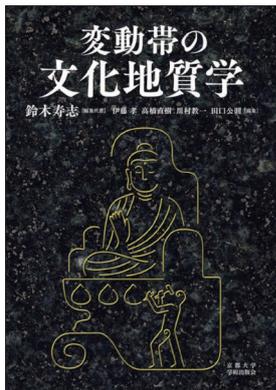
詳しくは、https://unit.aist.go.jp/innhr/inn-s/PD_course/index.html



紹介

変動帯の文化地質学

鈴木寿志（編集代表）、
伊藤 孝・高橋直樹・
川村教一・田口公則（編集）



京都大学学術出版会、2024年2月29日発行、
557ページ、A5上製、5940円（税込）、
ISBN 978-4-8140-0516-1

2011年の東日本大震災に直面して、津波来襲による原発事故を含めた大震災に対して、自らが積み重ねてきた地質学的研究の無力さを痛感した研究者は多かつたのではなかろうか。放散虫化石の研究に従事していた編集代表の鈴木もその一人であった。そして変動帯に生きる日本国民にもっと地質学のこと、つまり自分たちが住む大地のことを知ってもらいたいと願った。

そこで鈴木が意識したのが「文化地質学」である。これはザルツブルク大学のヴォルフガング・フェッターズ教授が2003年の論文「Kulturgeologie: Beispiele aus Antike und Neuzeit（文化地質学—古代と現代の例から）」で提唱した新しい学問分野である。その狙いは、地球科学と人文科学が相互に関わって、地球科学全体を人々に魅力ある学問として提示しうる新たな見方を提供することである。鈴木は2003年オーストリアのグムンデンで開催された地球科学学術大会「地球・人・文化・環境—ザルツマンマーグートの地質学」で文化地質学という言葉に出会った。そして、この耳慣れない学問分野でどのような議論が行われているかを日本に紹介するために、同年の日本地質学会ニュース（第6巻第10号）にKulturgeologieを「文化地質学」と訳して紹介した。

フェッターズ教授は、上記の論文では文化

地質学の定義をはっきり述べていないそうだが、歴史的な観点に立てば、人間の資源利用の歴史を考える資源人類学の色が濃いと言える。また、現在の観点に立てば、人類が地球環境といかに共存してゆけばよいかを考える環境地質学の色が濃いと言える。

日本における文化地質学の幕開けは、2014年に鹿児島で開催された日本地質学会第121年学術大会である。鈴木が世話人となって開催した文化地質学のトピックセッションは初めての試みだったにもかかわらず、11件もの研究発表があった。大会期間中に開催された文化地質学のランチョン集会以降もトピックセッションを続けてゆく方針が決まり、これを受けて毎年の学術大会で「文化地質学」のトピックセッションが開催されている。また2020年からは、地球惑星科学連合大会においても毎年文化地質学のセッションを開いている。なお、第121・122年の学術大会で発表された29件の研究発表の一部（15件）は『号外地球66号』（2016年）に特集されている。

地域地質の調査を通じて文化地質学に興味を持った研究者は多いが、実際に発表するととなると、発表の場は限られている。だからこそ、トピックセッションに毎年十数件の講演申し込みが集まるのである。それが現状であるのであれば安定した研究発表の場を設ければよいということで、2018年3月、大谷大学で「文化地質研究会」の設立総会が開催されて、鈴木会長、長秋雄副会長の下で文化地質研究会が発足した。以後、年に1回総会・研究発表会を行い、雑誌「地質と文化」を年2回発行している。雑誌は文化地質研究会のウェブサイトでもオンライン版を無料で閲覧できる。

文化地質学は日本では耳新しい学問であるが、まったく何もなかったところからうまれたわけではない。地質学を専門としない人文系—国文学、宗教学、歴史考古学、民俗学などの研究者が、1960年代から自然石や石造物について現地調査や口承の収集などを行って、図書として刊行していた。無論、地域の地質にも関心を払っているが、岩石鉱物学的性質や地質構造などに言及したものはない。しかし2008年に、地質学者加藤碩一と巨石写真家須田郡司が共著で出した『日本石紀行』（みみずく舎）は石が主体となる景観の地質学的な見方を提供するもので、文化地質学的図書の一つのモデルといえよう。

一方、地質学の分野では、本書では言及されていないが、岩石学者の中山勇が1986年に『石の文明と科学』、1990年に『新・石の文明と科学』を啓文社から出している。だが、当時はこのような本は現役を退いた地質学者が余技で著したものと考えられ、文化地質学へと発展することはなかった。同じことは鳥津光夫（2007年）『石の文化』（新人物往来社）についてもいえるであろう。だが、幸い蟹澤聡史（2010年）『石と人間の歴史—地の恵みと文化』と尾池和夫（2012年）『四季の地球

科学—日本列島の時空を歩く』が、それぞれ中公新書と岩波新書として刊行されたことは、文化地質学が社会的に認知される契機となったと考えられる。そして、それらに続く異好幸（2022年）『「美食地質学」入門—和食と日本列島の素敵な関係』（光文社新書）、伊藤孝（2024年）『日本列島はすごい—水・森林・黄金を生んだ大地』（中公新書）は文化地質学の社会的受容に大きく貢献しているようである。

本書は、このような歴史的背景を持つ我が国の文化地質学の広がりや到達点を29名の執筆者が協力してまとめたもので、5部構成になっている。その内容は以下の通りである。

- 序論 文化地質学の提唱と発展 [鈴木 寿志]
- 第Ⅰ部 石材利用の歴史と文化
- 第Ⅱ部 信仰と地質学
- 第Ⅲ部 文学と地質・災害
- 第Ⅳ部 地域の地形・地質を楽しむ
- 第Ⅴ部 地学教育の新展開
- 総論 変動帯の文化地質学 [鈴木 寿志]

最後の総論において、鈴木は、文化地質研究会は特別な専門家集団を目指しているのではなく、ありとあらゆる研究者の参画をもって、多角的・総合的な視点で大地に住む人々—広い意味では地球上に住むすべての人々—の幸福と相互理解を実現する学際研究を目指している。その意味で、文化地質学は総合科学であり、世界中の人々に開かれた学問分野である、と結んでいる。

ところで現在、高校の地学は消滅の危機に瀕している。たとえば、1979年に第1回共通一次学力試験が実施されたときの「地学Ⅰ」の受験者数は49,822人であったが、2023年実施の大学入学共通テストでは、主に私大の受験生が選択する「地学基礎（2単位）」の受験者数は43,943人と、それほど減少しているわけではない。しかし、主に国立大学の理系の受験生が選択する「地学（4単位）」は1,350人しか受けていない。このままでは地学を開講する高校は減ることはあっても、増えることはないであろう。高校の地学担当教員の採用枠が縮小すれば、大学で地学を専攻することを希望する学生も減少する。

現状を打破するには、大学、高校、中学で地学を担当する教員がこの教科がいかに人間生活と深くかかわっているかを文化地質学的観点から説明して、地学と社会との深い結びつきを語るが必要不可欠であろう。その観点から、日本のみならず世界で初めて文化地質学について詳述した書籍である本書を、地学教育関係者に強く推薦したい。

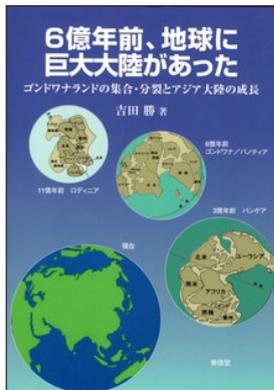
（原田憲一）



紹介

6億年前、地球に巨大大陸があった— Gondwanaランドの集合・分裂とアジア大陸の成長

吉田 勝 著



東信堂、発売日 2023年12月15日、A5版、156ページ、ソフトカバー、ISBN : 978-4-7989-1800-6 C3044、定価2000円+税

6億から1.5億年前まで南半球に存在した Gondwanaランドは、現在のアフリカや南米、インド、オーストラリア、南極などで構成され、当時の陸地の65%を占めた巨大大陸であった。Gondwanaランドは、北米大陸およびユーラシア大陸と3.3億年前に衝突し、全ての大陸が合体したパンゲア超大陸の一部となったが、1.5億年前からいくつもの大陸に分裂し現在の世界地図にある姿になっていく。このような超大陸の形成・分裂事件は地球環境変動や生物進化に大きく関わってきたと考えられているが、わが国においてこれを体系的に扱った一般向けの書籍はほとんどなく、初めて学ぶ者にとって敷居の高い分野と思われる。

本書は、6億年前から現在までのGondwanaランドの集合・分散のドラマを、多くの図表を用いて体系的に記述した一般向けの科学書である。著者の吉田勝教授は、2001年まで大阪市立大学地球学教室基盤地質研究室を主宰し、1997年に国際Gondwana研究連合(IAGR)を創立、国際学術誌Gondwana Researchを創刊し、日本では数少ないGondwanaランドの研究者として国際的な活動を行ってこられた。南極、スリランカ、インド、ネパールなどGondwana地域で調査研究を実施し、多数の研究者との国際的な交流を通じてグローバ

ルで包括的な大陸集合・分散モデルを構築されている。

本書の目次は以下のとおりである。各章にはコラムが配置され、関連するトピックが多数紹介されている。

- 第1章、大陸漂移説とプレートテクトニクス
- 第2章、Gondwanaランドとパンゲア実在の証拠
- 第3章、大陸移動の証拠
- 第4章、Gondwanaランドの誕生
- 第5章、パンゲアの誕生・分裂とアジア大陸の成長

第1章では、ウエーゲナーの大陸漂移説と、プレートテクトニクスとブルームテクトニクスに基づく大陸の分裂・移動の機構と原動力、プレート境界地殻変動を詳しく解説している。Gondwanaの語源はインド中東部Gondwana地域に由来し、この地域には中生代～中世代Gondwana累層群が広く分布する。大陸と地層の名称を明確に区別するために、「Gondwanaランド」が大陸名として好ましいとする考え方がある。本書では、「Gondwanaランド」を採用しているが、これは一般に用いられている「Gondwana大陸」と同義である。

第2章では、ウエーゲナーが挙げたGondwanaランドの存在を示す5つの証拠が詳しく紹介されている。これらの明確で十分な証拠が提示されながら、パンゲアを受け入れることができなかった当時の科学界への反省は、現在の科学にとっても重要であろうと著者は述べている。

第3章では、大陸移動の直接的な証拠である古磁極移動曲線について、「西南日本、東北日本(北上帯)と朝鮮半島南部」、「南極とスリランカ」、「アフリカとオーストラリア」、そして「Gondwanaランドとユーラシア」を例に詳しく述べられている。

第4章と第5章では、ロディニアからGondwanaランド、パンゲアを経て現在に至る大陸の集合・分散モデルがわかりやすく解説されている。第4章で3節に分けて、Gondwanaランドの誕生がどのような地質過程を経て行なわれたかが解説されている。第1節で11億年前のロディニア超大陸集合事件と東Gondwanaランドの誕生を南極大陸に認められる周東南極変動を例に説明し、第2節で7～5億年前の東Gondwanaランドと西Gondwanaランドの衝突による巨大大陸Gondwanaランドの集合事件(一般にパンゲア変動と呼ばれるが、本書では内Gondwana変動と呼んでいる)を詳しく解説している。Gondwanaランドに点在する11億年前より古い大陸片とその間を埋める7～5億年前の内Gondwana変動帯の配列が図でわかりやすく示されており、古い大陸片の衝突・集合プロセスが容易に理解できる。地質事件(造山運動)に年代を与える放射年代測定法が、ジルコン結晶を用いたウラン-鉛局所年代測定法を例にコラムで丁

寧に説明されている。第3節で6.5～4.5億年前のGondwanaランドの周辺で起きた周Gondwana変動(一般にはこれもパンゲア変動と呼ばれている)が説明されている。ここで示されているGondwana復元図は分かりやすく、沈み込みと島弧の形成、小大陸片の分離・衝突融合など多様なプロセスからなる周Gondwana変動の具体的なイメージをつかみやすい。

第5章では5節に分けて、5億年前から現在に至る大陸の集合・分散の歴史が解説されている。第1節でカレドニア造山運動と巨大大陸ユーラシアの誕生を、第2節でGondwanaランドとユーラシアの衝突およびパンゲア超大陸の出現(ヴァリスカン造山運動)を、第3節でパンゲアの分裂と海洋底の拡大および洪水玄武岩の活動を、第4節でインドプレートとユーラシアプレートの衝突とヒマラヤ造山帯の形成、そして第5節でGondwanaランド起源陸片のアジア大陸への衝突・付加とアジア大陸の成長が述べられている。現在最も注目されている研究課題の一つである地球環境変動と超大陸サイクルとの関係が、6ページにわたるコラムで論じられている。

「はじめに」で述べられているように、本書は学部学生対象の「一般地質学」の講義を基にまとめられたものである。本文にある図はすべてモノクロで鮮明に描かれており、そのうちの重要なものは口絵にカラーで示されている。主要な文献がレビューされており、さらに著者自身の研究が豊富に引用され、参考文献リストが大変充実している。読者になじみがないと思われる地質用語が巻末の「用語解説」で丁寧に説明されており、本書をわかりやすいものにしていく。

本書では、1968年南極観測隊における地質調査に始まり、インド、南アフリカなど多くのGondwana地域における調査研究を経て、大陸集合・分散モデル構築に至った著者の50余年にわたる研究成果が紹介されている。大陸集合・分散のダイナミックな遷移をたどる本書は、ローカルな現象から出発し、グローバルな普遍的モデルへと議論を展開していく地質学の魅力と醍醐味を教えてくれる。地球科学を専攻する人々だけでなく、一般の方々にも一読を勧めたい。

(有馬 眞)



博物館・ジオパークで地球を学ぼう！(33)
アポイ岳ジオパークビジターセンター

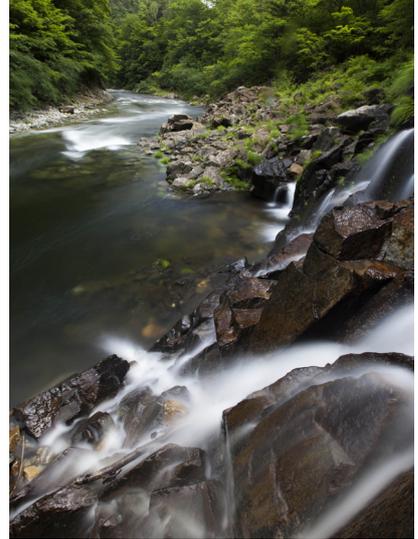


写真2 幌満峡のかんらん岩

地球深部からの贈り物がつなぐ大地と自然と人々の物語

アポイ岳ジオパークビジターセンター 加藤聡美

1. アポイ岳ジオパークの概要

北海道中央部の南北140kmに連なる日高山脈。その南端周辺に位置するアポイ岳を中心とした様似町全域(364.3km²)がアポイ岳ジオパークです。標高810.5mのアポイ岳は、大部分が地下数10kmの上部マントルを構成する「かんらん岩」からできている山です。約1,300万年前にプレート同士の衝突とめくれ上がりによってかんらん岩が海底に現れてから、山が形成されていったと考えられています。かんらん岩の独特な化学成分や貧栄養、乾燥といった土壌条件、海霧による冷涼な気候などによって、アポイ岳に固有な花を見ることができ、高山植物群落が国の「特別天然記念物」に指定されています。また、海岸にはいくつもの奇岩が立ちならび、その岩にまつわる先住民アイヌ民族の伝承も残されています。様似町は2018年に「世界ジオパークネットワーク」に加盟認定され、2024年6月25日にアポイ岳も含めた日高山脈とその周辺のエリアが「日高山脈襟裳十勝国立公園」に指定されました。

2. アポイ岳ジオパークビジターセンター

アポイ岳を中心とした展示を行っていたアポイ岳ビジターセンターを、改装して2013年にアポイ岳ジオパークビジターセンターとして開館しました。展示室面積は406.26m²で、鉄筋コンクリート製の1階建てです。様似町の地形・地質、自然、歴史・文化・産業に関する展示や映像・解説を通して、アポイ岳ジオパークをより楽しむために必要な情報の提



写真1 アポイ岳と様似海岸の奇岩

供を行う施設です。アポイ岳の登山口、ホテルアポイ山荘、アポイ山麓ファミリーキャンプ場に隣接し、コンパクトに見どころがまとまっています。

3. 幌満かんらん岩体

ジオパークの見どころの一つがかんらん岩です。過去に3回、様似町で幌満かんらん岩体の地質巡検を含む国際会議が開催され、2003年には地質学会から様似町が研究活動と国際交流に対して表彰状をいただきました。

幌満かんらん岩体の野外観察には、「アポイ岳」と「幌満峡」がおすすめです。学術的な解説としては、2002年の第4回国際レルゾライト会議の巡検案内書「Guide book for field excursion to the Horoman Peridotite Complex」と、2007年の地質学雑誌の見学旅行(L班)案内書の「幌満かんらん岩体の層状構造とその起源」の見学地点(Stop1-11)とその解説をご覧ください。

様似町役場前にある「かんらん岩広場」では、23個のメートルサイズのかんらん岩、数cmサイズのざくろ石が特徴的なグラニュライトやトータル岩などの日高変成帯の標本も観察できます。パンフレットも常設しています。この広場は1999年に贈呈され、アポイ岳を眺めながら、標本を見て、触れて、感じていただきたいという思いで設置されました。

アポイ岳ジオパークビジターセンターでは、幌満かんらん岩体のなりたちや特徴を体系的に説明した展示パネルと映像、また岩石の密度の比較実験や偏光顕微鏡による岩石薄片の観察とおとした体験から学ぶことができます。高さを強調して日高山脈を中心に表現したエントランスの北海道の鳥瞰図、また様似町全域の地質図を投影した地形模型からは、大地と自然と歴史の繋がりを読み解く説明をすることが多いです。ところで人類は月の石を地球に持ち帰っていますが、地球の地殻を掘削しマントルまで到達することができていません。そのような意味で「月よりも遠いマントル」を説明するために、1,000万分の1の地球と月の模型を使うことが多いです。これは地元の小学校教員が考案した解説道具ですが、かんらん岩の価値を理解する上で、

わかりやすいと大変好評です。

また、「世界のかんらん岩コーナー」にはポルトガルのMorais岩体やオマーンオフィオライトをはじめとする岩体のかんらん岩、ハワイ島などのかんらん岩捕獲岩標本を展示し、かんらん岩の地表への出方や規模の違いを紹介しています。様似町で発見された新種の鉱物の「幌満鉱」、幌満かんらん岩体とスペインのロンダ岩体で発見された「コランダムを含むはんれい岩質岩」の研磨標本も見どころの一つで、いずれも研究者からの寄贈とジオパーク間の標本交換により入手したものです。それらをとおして各国の自然・文化・地史、そして身近な地域に思いをはせることができます。また学芸員が館内・野外案内、講座を定期的に開催しています。

4. かつてのプレート境界

異なる2つのプレートがぶつかり、めくれ上がったのがアポイ岳を含む日高山脈ですが、まさにそのプレート境界そのものを見られる場所を、2020年にサイト(価値のある場所)「冬島おおま かつてのプレート境界」として指定しました。このサイトから東に日高変成帯の黒雲母片麻岩や角閃岩(かつての北米プレート側)、西にポロシリオフィオライト帯のはんれい岩(かつてのユーラシアプレート側)が産し、全く異なる岩石が隣りあっています。日高主衝上断層は日高山脈に沿って南北に約140kmも続く大断層ですが、地上で観察できる場所は非常に限られているため、学術的に貴重な露頭です。

このサイトでは山側の崖を見ると、滝地形が見え、ここがプレート境界です。異なる岩石が隣り合う断層となっているため、ここを沢の水が浸食し、滝地形となっています。潮が引いた日に、海岸を見ると深い溝地形が見えます。ここもプレート境界です。断層周辺が海の波で削られて深い溝ができました。ここは「おおま」とも呼ばれる場所で、深い溝地形を利用し、この地域特産の日高昆布の水揚げが行われます。

5. ジオパーク活動

(1) 保全 アポイ岳ジオパークは「地球深部からの贈りものがつなぐ大地と自然と人々の物語」をメインテーマとし、「かんらん岩



写真3 岡田のチセ



写真4 アポイクワガタとかんらん岩



写真5 かんらん岩広場と大学巡検

から大地の変動を学び楽しむ、アポイ岳の高山植物から自然環境を学び楽しむ、歴史から自然と人間社会の共生を学ぶ楽しむ」の3つをサブテーマとしています。

1996年と1997年にアポイ岳に固有な高山植物のヒダカソウの大量盗掘が社会問題となりました。これを機にボランティア団体「アポイ岳ファンクラブ」が設立され、官民一体となってアポイ岳の保全活動を行ってきました。アポイ岳ファンクラブの会員は、様似町の社会教育事業に参加する方も多く、2023年に設立した「アポイ岳ジオパークガイドの会」の会員のほとんどでもあり、ジオパークのガイドサービスを担っています。

(2) 教育 1992年に町立様似図書館が独立館として開館したことをきっかけに「野外図書館講座」をはじめました。当時、町民はアポイ岳やかんらん岩の名前は知っていましたが、何が特徴であるのかを知っていたわけではありませんでした。当時の職員が「これではいけない、様似の自然を正しく学んでもらいたい」と様似町に来ている研究者に講師を依頼し、図書館講座を開催しました。この地域学習の動きが様似町に根付き、ジオパークの講演会と巡検を行った「ふるさとジオ塾」、歴史文化防災担当部署などと連携しながら年間プログラムを構成することとし、統一化した町民学習講座「アポイカレッジ」と名称は変わりましたが、今でも年6回以上の講座を行っています。

学校教育では、2019年からは「ふるさとアポイ学」として、総合的な学習の時間の中で小学3年生から中学校3年生まで体系的に町内のことを学んでいけるようプログラムを組み、アポイ岳の自然や岩石などはもちろん、地域内の歴史や産業、文化について学ぶよう時間数も含め規定されています。また、例年開催される日本ジオパーク全国大会の際には、中学生をポスターセッション等に派遣していますが、中学校では全学年が町内での調査活動を行ったうえでグループに分かれてポスターを制作し、全校でポスターセッションを行っています。これらの活動により、地域・自然環境・地球科学への理解促進と、個人のプレゼンテーション能力の育成につながっています。

全35のサイトのうち33箇所の野外のサイトに看板をそれぞれ設置し、サイトの場所とみてほしいポイントを一目でわかるようにして

います。公式のガイドブックやウェブサイトからも情報が得られます。

アポイ岳ジオパークビジターセンターでは、これまで6回の独自の企画展を開催しました。エゾシカ・星空・高山植物・津波・日本や世界のジオパークなどをテーマとし、アポイ岳ジオパークを新たな面から知っていただけるものをテーマとしています。特に2019年に開催した「日高山脈と災害記録をたどる」特別展では、近年の津波堆積物調査により明らかになってきた過去の様似町の津波の記録や、文献記録を見直すことからこれからの災害について考える内容としました。

2016年に開始した「カン×カン講座」は、様似郷土館、町立様似図書館、アポイ岳ジオパークセンターなどの様似町内の「館」が連携して、住民のかた向けの各種講座を開催しています。工作、野外散策、講話などを実施し、講座を通じて町内の歴史や自然を学ぶ場となっています。

(3) 活用 アポイ岳ジオパークでは2013年から「ジオパークガイド」を認定し、ガイドサービスをはじめました。アポイ岳登山の依頼が一番多いのですが、平場の依頼もあります。また、ジオパーク内の素材を活用し、自然、文化、歴史などを感じることでできる地域ならではの商品や「アポイ岳ジオパーク認定商品」として認定する制度を2020年から開始しました。地元の中学生在が考案したアポイドリーム弁当などがあります。

6. 博物館・ジオパークで地球を学ぶ楽しみ方

(1) アポイ岳地質研究所 幌満峡の入り口の旧小学校理科室にあり、2012年にオープンした研究拠点施設です。地域の地質研究や研究者支援、住民向けに岩石や鉱物に触れる学習会を行っています。実際に岩石カッターや研磨機を使って、ふるさとの石の標本づくりや岩石の研磨標本づくり体験ができます。

(2) 町立様似図書館 「ジオパークコーナー」が設置されており、かんらん岩や高山植物をはじめとするアポイ岳ジオパークにおける数々の研究成果や地球科学に関連する書籍、またジオパークのネットワークを活かして国内外のジオパークのガイドブックや資料を閲覧することができます。

(3) 様似郷土館 1966年に、日高管内最初の郷土館として開館した小さな歴史資料館です。館内には、続縄文文化の遺跡である冬島

遺跡などの出土品やアイヌの儀式道具、近代の生活用品や昆虫などが展示されています。国の「史跡」である「様似山道」の5,000分の1の模型は、いかに険しい道であるかを実感することができます。かつてのプレート境界の位置を示した紀要「日高主衝上断層再訪：日高耶馬溪の地質と岩石」も含めた「様似郷土館紀要」を定期的に発行しています。

(4) 岡田のチセ チセはアイヌ語で家を意味する言葉で、かつてアイヌ民族の暮らしていた住居を復元したものです。このチセは2008年より2009年にかけて様似アイヌ協会により文化伝承の拠点として建設されました。様似アイヌ協会の先祖供養の儀式「イチャルバ」が年1回行われるほか、文化伝承、アイヌ文化普及のための施設として使われています。北海道の地名のほとんどは、アイヌ語に由来し、アイヌ民族の自然と調和した伝統的生活の中から歴史的に形成されました。この地域にも地形に関係する数多くの口伝説が残されています。2023年に地質学会が主催した、市民対象オンラインシンポジウム「ジオパーク地域に伝わる伝承と地質学：古代からの自然観を今に活かす」では、専門員が「アイヌ民族の伝承とジオパーク」として口頭発表しました。今後書籍になる予定です。

(5) 研究者支援 アポイ岳ジオパークに関連する調査研究を行う、または興味を持っている、あらゆる分野の研究者及び学生のみなさんを積極的に支援しています。

7. 最後に

プレートテクトニクスを実感していただき、地球科学の普及、特に津波と地震の災害への理解がより進むことに貢献し、保全・教育・活用のジオパーク3本柱をとおして、地域住民と共にジオパーク活動を進めていければと思っています。ぜひ多くのかたに、現地で、見て・触れて・食べて、楽しんでいただければ幸いです。

info

アポイ岳ジオパークビジターセンター
北海道様似郡様似町宇479-13
TEL 0146-36-3601
<https://www.apoi-geopark.jp/>
(「アポイ岳ジオパーク」公式サイト)

☆関東支部

お知らせ

家族巡検
「葛生化石館と周辺の石灰岩の見学」のお知らせ

関東支部では石灰岩をテーマに、家族で楽しめる栃木県佐野市の葛生化石館を中心とした巡検を行います。葛生化石館は、石灰岩の産地として知られた葛生地域の中核施設として、40年以上地域の地質学の普及に貢献された施設で、2022年度に関東支部功労賞も受賞されています。巡検は葛生化石館周辺の野外観察と葛生化石館の展示見学、石灰岩磨き体験（磨いた面の化石観察）の三部構成になります。

共催：（一社）日本地質学会関東支部・佐野市葛生化石館

日時：2024年10月27日（日）10：36～16：09（時刻は電車の時間、昼食持参、小雨決行、荒天中止）

場所：葛生化石館（石灰岩磨き体験を含む）および嘉多山公園。

講師：奥村よほ子学芸員

行程（集合・解散）：葛生駅（東武鉄道佐野線の終点）10:36集合→嘉多山公園（観察・昼食）→葛生化石館（見学・石灰岩磨き体験）→葛生駅16:09までに解散（全行程徒歩）

※集合・解散時刻は葛生駅の時刻表をもとにしています。

※雨天時は化石館へ戻ってから昼食をとります。

巡検の対象および人数：日本地質学会会員とその家族 15人程度

参加費：石灰岩磨き体験代300円と保険代を合わせ500円

持ち物：弁当・飲料水

申込期間：2024年9月27日（金）～10月17日（木）17:00締切

申込フォーム <https://forms.gle/Zdz1399Etgwv4p76>

お問い合わせ先：関東支部幹事 笠間友博（箱根ジオパーク事務局）

メール kasama@mh.scn-net.ne.jp

☆関東支部

お知らせ

講演会「県の石－東京都の岩石・鉱物・化石－」
のお知らせ（第二報）

日本地質学会は、全国47都道府県について、その県に特徴的に産出する、あるいは発見された岩石・鉱物・化石をそれぞれの「県の石」として選定し、2016年5月10日（地質の日）に発表しました。関東支部では、関東地方の「県の石」について順次講演会を行っています。今回は東京都の「県の石」について、現地（早稲田大学早稲田キャンパス）とオンラインのハイブリッド方式で講演会を行います。なお、現地会場では化石等の展示を行う予定です。

主催：（一社）日本地質学会関東支部

日時：2024年11月10日（日）13：00～16：00

対象：会員及び非会員 小学生3年生以上（内容は大人向けです）

会場：早稲田大学早稲田キャンパス6号館001教室

定員：現地100名（上記教室）、オンライン100名

参加費：無料（要事前申込み）

※ただし現地は資料代500円がかかります（高校生以下は無料配布）。

※現地で現金でお支払いください。

CPD：2.5単位取得可能

申込期間：2024年10月11日（金）～10月31日（木）17:00締切

申込方法：日本地質学会関東支部のWebサイトから申込フォームにて

プログラム

- 13：00 開場
- 13：30～13：35 開会の挨拶
- 13：35～14：35 東京都の石と鉱物 -小笠原諸島の無人岩とその地質学的意義-
石塚 治 産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門
- 14：35～14：40 質疑応答
- 14：40～14：50 休憩
- 14：50～15：50 東京都の化石「トウキョウホタテ」と早稲田大学
守屋和佳 早稲田大学教育・総合科学学術院理学科地球科学専修
- 15：50～15：55 質疑応答
- 15：55～16：00 閉会の挨拶

講演要旨については第一報または関東支部HPをご覧ください。
お問い合わせ先：関東支部幹事 笠間友博（箱根ジオパーク事務局）

メール kasama@mh.scn-net.ne.jp

第15回惑星地球フォトコンテスト：日本地質学会会長賞 空撮で捉えた付加体の覆瓦構造

写真：木村克己（茨城県・日本地質学会会員）

撮影場所：奈良県 紀伊山地，大台ヶ原上空からの空撮 2023年2月下旬撮影

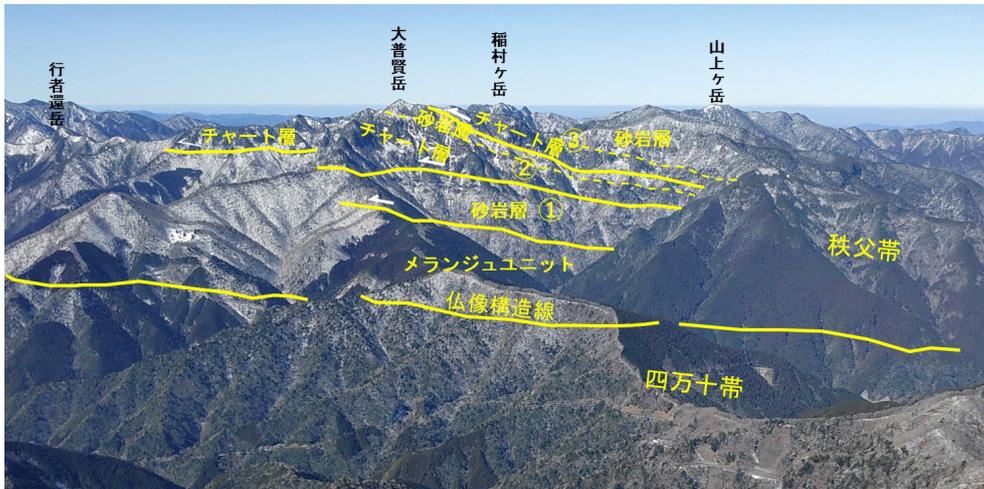
撮影者より・地質学的解説：空撮は大峰山脈北部の大普賢岳（写真中央）から山上ヶ岳（写真右）にいたる険しい大峯奥駈道を捉えています。この経路は四万十帯の付加堆積岩の上位に仏像構造線を介して低角度の構造で衝上する秩父帯の付加堆積岩を縦断しています。写真中央の鋸状の稜線（標高1780mの大普賢岳）の急崖斜面には、北に緩く傾斜した濃淡の縞状構造がくっきりと認められます。黒色の帯は急崖をなし針葉樹林で覆われたチャート層、灰白色の帯は平滑な斜面で落葉広葉樹下の雪を被った砂岩層にそれぞれあたります。この縞状構造は秩父帯のチャート・碎屑岩が付加される際に形成された覆瓦状構造を表現しています。（木村克己：（公財）深田地質研究所）



審査委員長講評：日本アルプスなど3000m級の山々では遠方から地質構造がわかりますが、標高2000m以下の山々でもこのような地質構造が見えることは知りませんでした。作者の地質の専門的な知識と撮影時期や方向の選び方など撮影技術の賜物と感心させられます。（白尾元理）

補足説明・参考文献：

- ・大和大峯研究グループ（2005）地球科学59巻5号287-300
- ・木村・八木（2023）深田研年報，24号，63-86



秩父帯のチャート層とその上位に重なる砂岩層が、図左側(南)へ衝上して3重(①-③)に積み重なる覆瓦構造をなす。秩父帯と四万十帯の付加体岩石群は仏像構造線で区切られる。白実線：衝上断層，白破線：地層境界
参考文献：大和大峯研究グループ(2005)，木村・八木(2023)。

地質学雑誌

地質学雑誌は、2022年（128巻）からは完全電子化となりました。会員の皆様に、公開されている新しい論文をご紹介します。ぜひJ-STAGE上で本論文を閲覧してください。QRコードからも各原稿にアクセスして頂けます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/geosoc/-char/ja>

新しい論文が公開されています

案内書 蔵王火山山頂エリア 伴 雅雄, 北川桐香

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2024.0019>

蔵王火山は、東北日本火山フロントに位置する成層火山である。2011年の東北日本太平洋沖地震の後に火山活動の活性化が観測され、2015年と2018年には警報が出された。本火山は約100万年間の噴火の歴史を持ち、様々な様相の活動を経てきている。この巡検では、その長期に亘る山体形成の推移を把握していただけのように観察ポイントを選定した。長期的な火山活動の推移の視点から、最近の火山活動の活性化を捉えていただければ幸いである。



案内書 月山周辺の地形・地質災害と変動地形 八木浩司

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2024.0020>

月山周辺部は、東北日本でも有数の地すべり地形の集中する地域である。この巡検では現在活動的あるいは近年活動した地すべりにおいてその活動の痕跡や活動史を確認する。また、月山西面の山体崩壊に伴う流山地形を観察しながら立谷沢川流域に入る。立谷沢川は荒廃河川で現在国直轄での砂防対策工事が行われている。最上川を閉塞する可能性のあった黒淵地すべりの対策跡も訪問し、この地すべりが川越地すべりであったこ



とも解説する。最後に山形への帰路上で鮭川断層などによる新規の断層変位地形を見る。

案内書 阿武隈山地東縁を探る：南部北上帯の高圧型片岩類と横ずれ断層帯のフィールドガイド

辻森 樹, 武藤 潤, 横山裕晃, 志関弘平

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2024.0022>

東北日本の地体構造单元には、「南部北上帯」のような西南日本には存在しない広大な複合地質帯が含まれている。この南部北上帯はマイクロプレートの性格を持ち、古生代前期の海洋性島弧-緑海の断片（オフィオライト）や島弧花崗岩類に加えて、古生代後期の高圧型変成岩類などを基盤とし、断続的に保たれたシルル紀から白亜紀までの陸棚堆積岩層が存在する。そして、これらの岩石には白亜紀の花崗岩類のプルトンが貫入し、古日本弧構成岩類の改変過程が保持されている。近年、南部北上帯の構成岩類は、日本海拡大以前のアジア大陸縁火山弧の地殻進化とテクトニクスを理解するための重要な研究対象として再評価され、例えば碎屑性ジルコンをもちいた地殻進化に関する研究に関しては、南部北上帯に固有の陸棚堆積岩層に着目することで西南日本よりも高解像度の連続的な情報が得られている。また、アジア大陸東縁の一部から現在の日本列島の形成に至る古地理を復元する研究において、南部北上帯の西端を定義する畑川断層およびそれに並行する双葉断層に沿った前期白亜紀の花崗岩を起源とする破碎帯は重要な地質研究素材である。この破碎帯は、白亜紀のアジア大陸東縁における大規模な横ずれ断層運動や、その後の背弧拡大に伴う大陸地殻の裂開やマイクロプレートの形成など、日本列島周辺域に固有の地質学の問題を解明する上で長年にわたって重要視されてきた。さらに、この破碎帯は、過去の内陸地震の地震発生域での物理化学過程を地表で直接観察できる化石断層として、非常に高い価値を持っている。本巡検コースでは、阿武隈山地の東縁で見られる古生代の高圧型変成岩や石灰岩など、南部北上帯を構成する岩石と、白亜紀以降の横ずれ断層によって生じたさまざまな変形岩を紹介し、それらについて現地での討論を目的とする。



事務局からのお願い：会員情報に変更があった場合は、,,

自宅や勤務先等登録内容にご変更があった場合は、速やかに情報の更新をお願い致します。毎月の会誌や大切な郵便物が届かなくなってしまう。

情報の変更は、学会ホームページ「会員のページ」にログイン（ID:会員番号, 7桁の数字です）すると、ご自身で登録内容を更新することができます。もしくは学会事務局までご連絡ください。ご協力をよろしくお願い致します。

問い合わせ：日本地質学会事務局 メール：main@geosociety.jp
電話 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156



学会記事

2024年度第1回執行理事会議事録

日程：2024年6月22日（土）13:00-16:00

【WEB会議】

出席：山路 敦、杉田律子、星 博幸、亀高正男、内野隆之、岩井雅夫、内尾（保坂）優子、大坪 誠、尾上哲治、加藤猛士（13:30-14:30中座）、小宮 剛、高嶋礼詩、辻森 樹、細矢卓志、松田達生、山口飛鳥、矢部 淳

監事：岩部良子、

オブザーバー：佐々木聡史（若手運営委員会）

欠席：坂口有人、山本正司（監事）

事務局 澤木

*定足数（過半数：10）に対し、執行理事17名の出席

冒頭山路会長より、今期は広報活動に注力することと各階層の活躍の場を整備し、特にシニア層の満足度向上を目指したい。執行理事各位には各担当の規則類をしっかりと確認した上で、委員会活動等を適切に運営してもらいたいとの挨拶があった。

報告事項

1. 全体的報告

・JpGU第30回学協会長会議（6/18開催）に山路会長出席。
・各種委員会メンバー及び執行理事の担当と緊急連絡先の確認

2. 運営財政部会（加藤・細矢）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>
・日本地球化学会より、2024年度日本地球化学会 第71回年会（24/9/18-20；於金沢大学）への共催依頼があり、承諾した。

・地学オリンピック日本委員会より2024年度協賛団体加入依頼があり、協賛を承諾した。

・新潟大学学術資料運営機構より企画展示「生きた化石シャミセンガイ」（24/7/24-8/31於新潟駅南キャンパス ときめいと）への後援依頼があり、承諾した。

・日本粘土学会より第67回粘土科学討論会（2024/9/4-9/6、於九州工業大学戸畑キャンパス）への協力依頼があり、例年通り後援として承諾した。

・東レ科学技術賞および科学技術助成候補者推薦依頼（学会締切9/13）【→News6月号、geo-flash掲載】

・令和7文部科学大臣表彰科学技術賞および若手科学者賞受賞候補者の推薦依頼（学会締切7/8）【→News6月号、geo-flash掲載】

<会員>

1. 今月の入会者(2団体、76名)

賛助会員（2社）：八千代エンジニアリング株式会社、共立工営株式会社

ジュニア会員（1名）：佐々木優心

正会員（75名）：一般会員（8名）赤松祐哉、

飯塚 陸、伊藤大智、大川真弘、國松 航、三島 郁、三輪学典、望月ちほ／学生会員（67名、うち単年度17、2年バック27、3年バック23）天野孝保、新井孝彰、池田芽生、池津雄地、石田昂汰朗、伊地知遼行、磯山未遊、伊藤 優、岩脇 望、大木可夏子、大河内砂恵、大津好秋、大森 涼生、小野寺隆也、河崎 陸、川並仁美、菊地泰生、喜多倅子、北代拓人、鬼頭岳大、金 鐵祐、桑原一平、玄田貴之、坂本賢太郎、島田知弥、島田誠明、島田昌弥、瀬川知希、高 慎一郎、高田直翔、高橋 慧、高橋慶多、高畑 彩、多久和風花、武田 与、辻本大暉、敦澤 陸、遠嶋美月、富樫琴美、中里政貴、中野 竜、中村一喜、中村侑己、野宮健太、橋本真由、長谷川未佑、波多野瑞姫、馬場日和子、PLAET ALVIN LORAN YAMAGUCHI、古川 且、前 圭一郎、眞次裕司、三木悠仁、溝口大世、箕輪桃子、向井一勝、村上慶介、村上瑞己、Mosekiemang Goitse、森駿介、八木寿々歌、山口季彩、山田真嵩、吉朝 開、葭井功輔、吉田達也、LIU BOFU

2. 今月の退会者（2名）

正会員一般：平野光浩、根本英利

3. 今月の逝去者（2名）

正会員シニア：石井久夫（逝去日不明、4月上旬）、門田真人（逝去日：2024年6月12日）

4. 2024年5月末会員数

賛助：31、名誉：34、ジュニア会員：5、正会員：3049〔一般2017、シニア853、学生179〕合計：3119（昨年比-30）

<会計>

・地学オリンピック日本委員会2024年度協賛金を支出予定。4口20万円

<その他>

・今後、規則類の整理と共有、会員数の整理と分析、会計収支の分析を進めて行く。

3. 広報部会（坂口・内尾・大坪・松田）

1) 広報委員会（坂口）

・6/21に新旧引き継ぎ会を開催し、HP刷新工程、SNS運営、ニュース誌の魅力向上策、プレスリリース等について議論を行った。

4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）

1) 行事委員会（高嶋・山口）

・2024山形大会準備状況：

→6月26日 講演要旨締め切り

→6月29日 行事委員会にてプログラム作成

→LOCのご尽力により、会場費の減免措置が許可される模様。

→巡検案内書（A～Hの8コース）：受理済み（A、B、C、D、F）、1回目査読終了・小修正（E、H）、査読中（G）

→学生優秀発表賞のポスター審査：大会当日は混雑により十分な審査ができない状況にある。審査員の審査時間、質疑応答の時間を確保するため、優先時間帯や審査員を優先するように周知するなどの工夫が必要ではないかという意見があった。また、審査委員長（各賞選考委員長）には、集計結果、審査結果の情報を

適切に共有する。

・2025熊本大会：2025年9月14-16日実施予定。LOCの組織立ち上げ、巡検コースの選定、会場の検討はすでに実施済み。懇親会会場（熊大生協）もほぼ決定。ただし、200名以上の場合には応相談。巡検は現時点で9コース。承認が下り次第、案内書の執筆依頼を行う予定。

・2026金沢大会：LOC組織の立ち上げと開催日の決定を依頼した。金沢大で検討中。休日を含めた9月中旬～下旬開催で調整中。

2) 専門部会連絡委員会（尾上）

なし

3) 国際交流委員会（辻森）

なし

4) 地質標準化委員会（内野）

改訂版JIS A0205、地質年代日本語表記の一部変更案について、先月地質学会からその内容が妥当である旨を産総研のJIS事務局に伝えた。

5) 学術戦略WG（尾上）

なし

6) ショートコースWG（山口）

・委員の交代

（留任）山口飛鳥、亀高正男、菊川照英、下岡和也、桑野太輔

（新任）吉田健太、浜橋真理、石橋 隆

（退任）辻森 樹、矢部 淳、納谷友規、北村有迅

5. 編集出版部会（小宮・辻森）

1) 地質学雑誌編集委員会（小宮）

(1) 編集状況報告（2024年6月21日現在）

・2024年投稿論文：27（昨年比-2）〔内訳〕論説11（和文10、英文1）、報告3（和文1、英文2）、レター3（和文3）、ノート1（和文1）、フォト1（和文1）、巡検案内書8

・査読中：20、受理済み：2、入稿・校正中：8、130巻公開済み18件（203ページ）

2) Island Arc編集委員会（辻森）

(1) 編集状況報告

・投稿システムのプラットフォームがSchlorOneからREXに代わったことに伴い、査読システムも変更となる。近日中に、その旨、メーリングリストで会員に知らせる。

・IFは1.0となった。コロナ禍の影響が表面化したこと、高引用論文が掲載されなかったこと、中国で国際誌の発刊が増えたことが原因と考えられる。

2) 企画出版委員会（小宮）

令和7年度版学習資料「一家に1枚」企画募集があった。前回地質学会として企画した「日本列島7億年」から5年経過したので新たなテーマを検討する。

6. 社会貢献部会（矢部・岩井・大坪・坂口）

1) 地学教育委員会（岩井）

特になし

2) 地質技術者教育委員会（加藤）

・JABEE校の宣伝ポスター（2024年版）を全国の高等学校へ発送予定

・山形大会での地質系業界説明会（対面）の

応募は現状で35と昨年の京都大会での定員より超過。ブースのスペースや電源容量について確認する必要があるため、今後行事委員長とともに山形大を現地見予定。学生の集客に向け、SNSでの周知や、地質系大学教員への説明と学生への声かけ協力要請を行っていく必要があるとの意見があった。

3) 生涯教育委員会 (矢部)

・総会で地質学会の博物館対応について質問があったことを受け、委員会で議論した。現状でもニュース誌で博物館からの記事を連載しているが、さらに山形大会ではランチョンもしくは夜間小集会を開催することとした。
・博物館の数は多いので、ニュース誌での連載はもっと積極的に行った方が良い。また、地質学雑誌に寄稿してもらうことも有効であるとの意見があった。

4) 地震火山地質こどもサマースクール (岩井)

特になし

5) 地質の日 (矢部)

・日本記念日協会より5年ごとの現況確認があり、登録維持で回答、更新を行った。

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネージメント委員会 (亀高)

特になし

2) 若手育成事業検討WG (内野)

特になし

3) 表彰制度検討WG (亀高)

各賞選考委員会、各賞選考検討委員会よりいくつかが要望が挙がっており、今後優先度の仕分けを行っていく。

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会 (矢部)

特になし

2) 地学オリンピック支援委員会 (坂口)

特になし

3) 支部長連絡会議 (杉田)

特になし

4) 地質災害委員会 (松田)

・防災学術連携体の7ヶ月報告会 (7/30, zoom & YouTube) は、井上卓彦会員 (産総研) に発表いただくこととなった。発表タイトル「2024年能登半島地震に関わる海域断層の分布と変位」

5) 名誉会員推薦委員会 (星)

特になし

6) 各賞選考委員会 (亀高)

特になし

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (山口)

特になし

8) 法務委員会 (亀高)

特になし

10) 若手活動運営委員会 (星)

・山形大会の前日 (9/7) に「学生・若手のための交流会」を山形テルサで開催予定。交流会の詳細については学会HPに掲載予

定。

・若手巡検について (→審議事項へ)

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会 (委員長 大和田正明)

特になし

2) 地質学研究会 (委員長 川村紀子; 杉田)

・2023年度委員会活動報告があった。学術大会ランチョンや法科学技術学会での学会発表や打ち合わせなどを行った。

10. その他

・巡検案内書WG (杉田)

まずは地質学雑誌での位置付けについて検討していく。前書き、編集後記、全体位置図など、巡検案内書に必要な記事についてJ-STAGEで適切に表示されることを望むとの意見があった。

審議事項

1. 地質若手巡検 in愛知県犬山地域の開催について (佐々木)

若手研究者の研究交流及び地質学会への新規入会促進を目的として、今年も巡検を実施する。10/26 (土) 日帰りを予定。昨年は宿泊の巡検を実施したが、「日帰り」の要望も多かったため、今年実施してみて、来年度以降の計画につなげたい。日帰りではあるが、見学地点を絞り、十分議論する時間を取るよう配慮した計画となっている。会期に合わせて、ニュース誌8月号等で適宜参加者を募集予定。

2. 自然史学会連合、JpGUからの科研費増額に関する要望書について

JpGUほか関連学協会連合等が連名にて、標記要望書の提出を予定しており、各加盟協会へ賛同が呼び掛けられた。地質学会として要望書に賛同する。ただし、その旨を返答する際に、今後提出先に確実に読んでもらえるように、次の3点を先方に提案する。1) ポイントを3点に絞る。2) 長ければ読まれないので、要望書の本文は1ページに収める。3) 要望内容が一目でわかる図表類 (ポンチ絵等) を添付する。

3. 学生優秀発表賞について (山口)

今年度は「受賞に値するか」の評価項目を削除し、「総合評価」という項目を追加する。評価コメントを発表者にフィードバックするかどうかについては、事務局・行事委員会の負担軽減と発表者への配慮から実施しない。審査員から評価コメントを集めないこととする。ただし、コメント自体は発表者のためにもなるので、聴講者、審査員が発表者に直接伝えてもらうよう促す。

4. プレスリリース廃止について (坂口)

近年は各大学や機関で積極的にプレスリリースを実施しているため、今後地質学会学術大会での「特筆すべき研究成果」のプレスリリースは廃止する。その他 (学術大会の案内、普及・教育イベントの案内、各セッションのハイライト) は従来通りプレスリリース

の資料を報道機関に配布する。なお、ハイライト講演の選出が行われていないジェネラルセッションでも、今後トピックセッションと同様にハイライト選出を実施する。詳細は行事委員会で検討する。

監事コメント (岩部)

これまでの課題だけでなく、これからの課題も沢山あると思うので、新たに加わった方も含め執行理事には学会員のために尽力して頂きたい。期待している。

以上

2024年7月19日

一般社団法人日本地質学会

会長 (代表理事) 山路 敦

署名人 執行理事 亀高正男

2024年度第2回執行理事会議事録

日程：2024年7月20日 (土) 13:00-16:30

【WEB会議】

出席：山路 敦、杉田律子、星 博幸、亀高正男、内野隆之、岩井雅夫、内尾 (保坂) 優子、尾上哲治、加藤猛士、坂口有人、高嶋礼詩、辻森 樹 (15:30-16:30)、細矢卓志、松田達生、矢部淳、山口飛鳥

監事：山本正司、岩部良子

欠席：大坪 誠

事務局 澤木

*定足数 (過半数：10) に対し、執行理事17名の出席

*前回24-01議事録案は、本執行理事会にて承認された。

報告事項

1. 全体的報告

・特になし

2. 運営財政部会 (加藤・細矢)

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>
・蒲郡市生命の海科学館より、第15回地球惑星フォトコンテスト入賞作品展 (24/10/26-11/24) の共催依頼があり、承諾した。

・2024年度朝日賞 (自然科学) 推薦依頼 (8/26締切、学会推薦8/5) 【→News7月号, geo-flash掲載】

・第46回沖縄研究奨励賞推薦依頼 (9/30締切、学会締切9/5) 【→News8月号, geo-flash掲載】

<会員>

1. 今月の入会者 (3団体, 27名)

賛助会員 (3社) Nanjing Binzhenghong Instrument Co., Ltd., 株式会社中部森林技術コンサルタント、山陰開発コンサルタント株式会社

正会員 (27名)

一般会員 (5名) 岩橋くるみ、蘇 綾、

Conway Chris, Snyder Glen, 松井 昭
学生会員 (学生会員 (22) 単年度: 12, 2年
バック: 7, 3年バック: 3) 高山佳奈子,
Eyang Ondo Philomene Vanessa, 服部 海,
北條龍生, 小田結子, 久常見誠, 坂下福馬,
山形咲乃, 野左近督人, 戸田涼斗, 島野悠
作, 石川圭一郎, 改原玲奈, 岡田尚大, 永田
篤規, 山崎悠翔, 貞松夏実, 菅原葉々美, 杉
本優月, Pandey Abhishek, 小野誠太郎, 石
原康輝

2. 今月の退会者 (3名)

正会員一般 (3) 小杉裕樹, 瀬戸山功平, 高
橋宏明

3. 今月の逝去者 なし

4. 2024年6月末会員数

賛助: 33, 名誉: 37, ジュニア会員: 6, 正
会員: 3111 [一般2006, シニア864, 学生会
員 241] 合計3187 (昨年比+25)

<会計>

<その他>

・学生優秀発表賞エントリーに際しての会員
種別に対する会員からの問い合わせがあっ
た。現状、学生優秀発表賞は正会員 (学生
会員) のみがエントリーの対象となっている
が、正会員一般で会員登録している学生
から同賞にエントリーしたいとの希望があ
った。今回は、運営規則・各賞選考規則に
則り、当該学生に対し特別な措置をとらな
いこととした。ただし、今後は会員種別
に関わらず、学生であればエントリーでき
るように、検討していく。

3. 広報部会 (坂口・内尾・大坪・松田)

1) 広報委員会 (坂口)

・X (旧Twitter) の運用について: 7/10よ
り新理事体制で引き継いで運用開始。しば
らく大坪のみが運用し、現状把握と課題の
抽出を試みている。引き継いで以降、フォ
ロワー数が1992から2040に増加した。星副
会長から、今後専門分野が異なる複数の理
事からも発信していき、フォロワー数を1
桁増やしたい、旨のコメントがあった。

・次期ホームページについては、スマホ閲覧
に対応すること、会員と一般とで表示内容
を分けるなどを検討している。次回理事会
に改修案を提示予定。

4. 学術研究部会 (辻森・尾上・高嶋・山口)

1) 行事委員会 (高嶋・山口)

・2024山形大会準備状況:
→プログラム確定・大会サイトで公開を近
日予定
受賞記念講演は初日の表彰式内で行う。
ただし、時間的に余裕がないので進行の
管理をしっかり行う必要あり。
地質情報展が別会場 (山形テルサ) で行
われることを会員に注意喚起する。
→学術大会・懇親会参加登録 8月20日18
時まで
物価高や内容充実優先もあるが、懇親会
費が高額な印象を受ける。今後の大会で
は事前にLOCに金額面について相談す
る。

→巡検参加登録 8月1日18時まで

・申込期間が短く十分な集客ができない可
能性あり。HPで現状の申込数の表示と、状
況によっては締め切り延長も検討する。
→8/8まで延長する。

→巡検案内書 8コース中6コース受理済
み。1コース入稿中、2コース校正中、3
コースはJ-Stageに掲載済み。

・2025熊本大会:

特になし

・2026金沢大会

→9月12日 (土) ~14日 (月) が希望との
申し出有り。巡検は8コースを予定。

→演題登録期間やプログラムの編集・公開
作業に余裕を持たせるため (プログラム
掲載号をニュース誌8月号にする)、金沢
大会開催を一週間繰り下げできないか打
診する。ただし、なるべく大学 (LOC)
の意向を尊重する。この議論を受けて、
講演プログラムは早期にWEB公開がで
きる。ニュース誌の編集スケジュール
を優先して、演題登録期間が短くなる
のは好ましくない。ニュース誌 (プロ
グラム掲載号) の発送時期は参加登録締め
切りに間に合わなくても良いとの意見も
あった。

2) 専門部会連絡委員会 (尾上)

なし

3) 国際交流委員会 (辻森)

各国機関とのMOUの有効期間を確認する。

4) 地質標準化委員会 (内野)

なし

5) 学術戦略WG (尾上)

なし

6) ショートコースWG (山口)

7/21 (日) に第11回「微化石」を開催する。
午後の部については、演者の都合により延期
(日程は調整中)。高校生からの受講希望があ
り、事務局で別途対応することとする (参加
費無料で出席可とした)。

5. 編集出版部会 (小宮・辻森)

1) 地質学雑誌編集委員会 (小宮)

(1) 編集状況報告 (2024年7月17日現在)

・2024年投稿論文: 30 (昨年比-8) [内訳]
論説12 (和文11, 英文1), 報告7 (和文5,
英文2), レター4 (和文4), ノート1 (和
文1), フォト1 (和文1), 巡検案内書8

・査読中: 23, 受理済み: 2, 入稿・校正中:
4, 130巻公開済み24件 (295ページ)

・昨年に比べて投稿数が少ないので、投稿数
の増加を促す。

・最近エディタリジェクトされた論文につい
て、投稿前に事前に修正箇所を明示して、
再投稿を促した。編集委員長の負担軽減の
ためにも、このような案件対応をシニア会
員にサポートしてもらおう仕組みを作って
はどうか、との意見が山路会長からあり。

2) Island Arc編集委員会 (辻森)

(1) 編集状況報告

3) 企画出版委員会 (小宮)

著書「大地と人の物語」編集作業中。

6. 社会貢献部会 (矢部・岩井・坂口)

1) 地学教育委員会 (岩井)

高等学校での地学履修者は引き続き把握して
ゆく。

2) 地質技術者教育委員会 (加藤)

山形大会地質系業界説明会には52社に参加頂
ける。理事会に対して学生への周知をお願い
する。

3) 生涯教育委員会 (矢部)

糸魚川フォッサマグナミュージアムよりジオ
パーク企画展「地球時間の旅」について
News誌に投稿したいとの申し出があり、「博
物館・ジオパークで地球を学ぼう」に寄稿頂
くことにした。

4) 地震火山地質子どもサマースクール (岩 井)

今年度は徳島県三好市 (吉野川大会: 8/7-8)
で実施。来年度は御岳、再来年度は気仙沼で
実施予定。

5) 地質の日 (矢部)

なし

7. その他執行理事の下に設置される委員会 及び組織

1) 利益相反マネジメント委員会 (亀高)

なし

2) 若手育成事業検討WG (内野)

なし

3) 表彰制度検討WG (亀高)

7/13 (土) 会合開催 (→審議事項へ)

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会 (矢部)

なし

2) 地学オリンピック支援委員会 (坂口)

・地学オリンピック日本委員会より問題作成
者の推薦依頼があり、会員2名を推薦した。

3) 支部長連絡会議 (杉田)

なし

4) 地質災害委員会 (松田)

防災学術連携体の報告会 (7/30) には欠席。
委任状を提出済。

5) 名誉会員推薦委員会 (星)

なし

6) 各賞選考委員会 (亀高)

なし

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (山 口)

JpGUダイバーシティ推進委員会より委員選
出依頼があり、堀 利栄委員 (愛媛大学) を
選出した。次期委員長については確認中。

8) 法務委員会 (亀高)

なし

9) 若手活動運営委員会 (星)

委員会の性質上、今後も意識的にメンバの世
代交代を行っていきたい。

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会 (委員長 大和田正 明)

なし

2) 法地質学研究委員会 (委員長 川村紀子; 杉田)

なし

10. その他
なし

審議事項

1. 巡検案内書の出版編集規則への追加について(杉田・小宮)

「巡検案内」というカテゴリの明記に伴い、細則案を作成した。学術大会巡検以外の原稿(単発分)も受け付ける可能性はあるが、まずは学術大会巡検の原稿作成に関する細則制定について検討することとする。次回の執行理事会までに修正案を提示する。

2. 各賞選考委員会の要望事項への対応：各賞選考規則・各賞選考委員会規則修正案(亀高)

・不利益を被る会員をなくすよう、受賞年齢制限のある各賞の年齢起点を「募集開始年の9月末日」から「募集開始年の4月1日」に変更。念のため、起点日について再度確認する。また、審査員が十分な評価ができるよう、推薦文の文字数を現在「400字以内」としている賞については、「800字以内」に変更する。変更内容については、十分な周知を行い、来年度から有効とした。次回8/31理事会に上程する。

3. その他

・山形大会に関して、新型コロナウイルスの今後の感染状況によっては、HP等で注意喚起を行う。

・地質学雑誌で故人を共著者に含めることを可とすることにするが、そうした論文では故人であることを脚注などで明記していただくことにした。

監事コメント

(岩部) 巡検案内書の地質学雑誌での扱いなど、様々な課題に丁寧に議論してもらい感謝する。

(山本) 会員数が今月プラスになったことは大変喜ばしい。学生が正会員であったために優秀発表賞にエントリーできなかった案件があったが、会員ができるだけ不利益を被らないよう、対応を考えて頂ければ幸い。

以上
2024年8月10日
一般社団法人日本地質学会
会長(代表理事) 山路 敦
署名人 執行理事 亀高正男

2024年度第3回執行理事会議事録

日程：2024年8月10日(土) 13:00-17:30

【WEB会議】

出席：山路 敦、杉田律子、星 博幸、亀高正男、内野隆之、岩井雅夫、内尾(保坂)優子、大坪 誠、尾上哲治、加藤猛士、小宮 剛、坂口有人、高嶋礼詩、辻森 樹、細矢卓志、矢部 淳、

山口飛鳥

監事：岩部良子

欠席：松田達生、山本正司(監事)

事務局 澤木

*定足数(過半数：10)に対し、執行理事17名の出席

*前回24-02議事録案は、本執行理事会にて承認された。

報告事項

1. 全体的報告

特になし

2. 運営財政部会(加藤・細矢)

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>
特になし

<会員>

①今月の入会者(正会員学生 7名)

学生会員(単年度：3名、2年バック：3名、3年バック：1名)：飯澤彩羽、鈴木岳斗、矢口朔子、古庄航輝、石川創士、吉田 颯、出口琢磨

②今月の退会者 なし

③今月の逝去者 なし

④2024年7月末会員数

賛助：35、名誉：37、ジュニア会員：6、正会員：3136[一般2009、シニア864、学生263]合計3214(昨年比-29)

<会計>

特になし

<その他>

・7/25(金)に第1回総務委員会を開催した。今後は、規則の整理、会員数の分析、学会財政に取り組んでいく。また、選挙システムの修正検討を行う。

3. 広報部会(坂口・内尾・大坪・松田)

1) 広報委員会(坂口)

・Webサイトリニューアルの構成案(内尾)(→審議事項へ)

・Xの運用(投稿)を活発に進めている。フォローは2100に増加した。

4. 学術研究部会(辻森・尾上・高嶋・山口)

1) 行事委員会(高嶋・山口)

・2024山形大会

→Geoheritage(平成新山・喜界島)の説明会開催について、山形大会9月10日の口頭会場1(112教室)ランチの時間帯を提供する。

→緊急展示を募集する。申込締切8月29日(木)。大会中3日間掲示するが、コアタイムは9月9日の一日のみを予定。世話人は、応用地質部会の山崎新太郎会員。

→プレスリリースと記者の出入りについては、例年同様、大会受付で報道関係者専用名札を渡すことで対応する。

→巡検および巡検案内書：巡検は全てのコースが最少催行人数を上回り、実施可となった。案内書は受理6件、修正中2件。

→現在、世話人に「シンポジウム・セッションハイライト」を依頼中。

→理事には、積極的に優秀発表賞・ジュニ

アセッションの審査員登録をお願いしたい。

・2025熊本大会

→巡検案内書の最新版を確認した。次回理事会に上程する。

→地質情報展と市民講演：会場は熊本城ホールを予定。市民講演については恐竜関係のテーマで調整中。

・2026金沢大会

→日程はやはり9/12-14日でお願いしたい。次回理事会に上程する。

→Zoomでの説明会を8月中に実施予定。

2) 専門部会連絡委員会(尾上)

特になし

3) 国際交流委員会(辻森)

特になし

4) 地質標準化委員会(内野)

特になし

5) 学術戦略WG(尾上)

特になし

6) ショートコースWG(山口)

・7/21、7/28に第11回「微化石」を開催した。7/21「微化石一般と放散虫」講師：松岡 篤(参加者60、うちCPD希望26)、7/28「微化石データ活用の最前線」講師：林 広樹(参加者39、うちCPD希望18)。両回とも動画視聴可として参加者に対して視聴用URLを案内した。アンケート結果集計中。

・次回以降の予定を理事会で報告予定。

5. 編集出版部会(小宮・辻森)

1) 地質学雑誌編集委員会(小宮)

(1)編集状況報告(2024年8月8日現在)

・2024年投稿論文：33(昨年比-9)[内訳]論説14(和文12、英文2)、報告8(和文6、英文2)、レター4(和文4)、ノート1(和文1)、フォト1(和文1)、巡検案内書8

・査読中21、受理済み0、入稿・校正中4、130巻公開済み26件(328ページ)

2) Island Arc編集委員会(辻森)

(1)編集状況報告

・現在、新投稿・査読システム(REX)への移行期間中。新規投稿のみ新システムで受付、投稿中原稿は受理まで旧システム上で処理する。査読処理の際一部で問題が発生している。

3) 企画出版委員会(小宮)

特になし

6. 社会貢献部会(矢部・岩井・坂口)

1) 地学教育委員会(岩井)

・山形大会ジュニアセッション(コアタイム9/8)の申し込みを締め切った。11校21講演を予定。理事に対して審査依頼を行った。大会へ参加する理事の方々にはぜひ審査にご協力いただきたい。

2) 地質技術者教育委員会(加藤)

・9/9(月)の対面での地質系業界説明会では基盤教育1号館の3つの教室を使用して開催する予定。オンライン説明会は9/13(金)に開催予定。執行理事会・理事会の先生方には、学生への参加案内の周知にご協力い

ただきたい。

3) 生涯教育委員会 (矢部)

今後、地学教育委員会との合同事業を検討中。

4) 地震火山地質子どもサマースクール (岩井)

吉野川大会 (2024/8/7-8) は無事に終了。今後Youtubeでも配信予定。

5) 地質の日 (矢部)

来年度は幕張でイベント開催予定。

7. その他執行情事の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネジメント委員会 (亀高)

特になし

2) 若手育成事業検討WG (内野)

特になし

3) 表彰制度検討WG (亀高)

特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会 (矢部)

特になし

2) 地学オリンピック支援委員会 (坂口)

・地学オリンピック支援委員会第19回議事録 (2024.3.23開催)。HP公開済み【報告資料】

3) 支部長連絡会議 (杉田)

特になし

4) 地質災害委員会 (松田)

・7/30 (火) 13時より令和6年能登半島地震・7ヶ月報告会が開催された。ウェビナーやyoutubeでも配信された。最初の講演で、地質学会から産総研の井上卓彦氏による能登半島地震の地質学的な海域の活断層調査の講演があり、産総研のシームレス地質図などの紹介もあって有意義なものとなった。

5) 名誉会員推薦委員会 (星)

特になし

6) 各賞選考委員会 (亀高)

・委員候補者を次回理事会に上程する。

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (山口)

特になし

8) 法務委員会 (亀高)

特になし

9) 若手活動運営委員会 (星)

・学生・若手のための交流会 (9/7, 土曜) の広報を学会HP, メルマガ, 若手メール配信で行っている。

・若手巡検・研究集会 (10/26, 土曜) の広報を学会HP, ニュース誌, メルマガ等で行う。

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会 (委員長 大和田正明)

特になし

2) 法地質学研究委員会 (委員長 川村紀子; 杉田)

特になし

10. その他

特になし

審議事項

1. 第39回 (2024) 京都賞 ポール・F・ホフマン氏の受賞に際して (山路)

・地質学者の「京都賞」受賞は大変喜ばしいことであり、地質学会としても何かしらの対応を取りたい。ホフマン氏と親しい磯崎行雄会員にニュース誌へ寄稿頂いているが (ニュース誌8月号掲載予定)、地質学雑誌にもより一般向けの内容として寄稿頂けないか打診したい。ただし、京都賞の授賞式は11月中旬なので、それまでに刊行されている必要がある。その他、ホフマン氏へのインタビューや、氏と若手研究者との対談の場を設け、その記事をジオルジュ来春号に掲載するという案も挙がった。東京での受賞イベント企画者でもある磯崎会員に、地質学会で協力できることがないかを相談する。

2. Webサイトリニューアルの構成案 (内尾)

・基本方針が承認された。会員・一般向けの様々な内容が混在している「普及と教育活動」という項目については、名称を見直した方が良いとの意見あり。その他の意見も含め内容を再検討し、8/31理事会に修正案を提示する。その他意見は以下の通り。

→出版物カテゴリーの第一項目がIsland Arcとなっているが、出版自体はWilley社なので、配置箇所が現状のままで良いか要検討。/一般向けの内容は別出しにできないか。/JABEE, CPD, 研究委員会, ショートコースなどの配置を再検討してはどうか。/協賛企業 (賛助会員) のバナーをトップページ下底に載せるなら、会費増額もあり得る。

3. 学術交流協定 (MOU) 更新について (辻森)

・一部協定の締結期間が終了しているものがある。これらについて引き続き更新することが確認された。特にタイ地質学会とロンドン地質学会については早急に更新を行う。現在は5年ごとに都度更新を行っているが、国によっては自動更新するという方法も検討したい。

4. 巡検案内書に関する規則改正等について (杉田・小宮)

・前回の執行情事会で学術大会巡検案内書については細則を設けることが決定され、今回その修正案の内容について承認された。

・現在J-Stage上でバーチャル特集号となっている巡検案内書に、冊子体時代に掲載されていた序文や安全のしおり等をどう載せるかが議論された。山形大会では安全のしおりはDOIが付与されJ-Stageで公開される予定である。次回熊本大会からは巡検コースの一覧、コース全体のエリアマップ、

編集委員名・査読者名を巻頭言と合わせプリフェイスとして用意し、安全のしおりとともに一つのDOIを付与してJ-Stage上で巡検案内書に付録することが確認された。また、巡検が中止されたり、案内書が作成されなかった場合には、その旨をエラータ記事としてアップすることで対応する案が出された。

・地質学雑誌編集委員長から、「報告」カテゴリーの規約にある「議論を含めない」を削除したいとの提案があった。理由は、①「議論」の基準があいまいなこと、②この文言があるためにリジェクト扱いとなる原稿があることが挙げられる。執行情事からは、賛成・反対の他、「報告」カテゴリーは不要で議論のないデータはリポジトリ (J-STAGE Data) に登録すれば良いとの意見があった。本件については、報告カテゴリーが設定された当時の経緯やこれまで公開された報告原稿の内容も精査しつつ、継続審議とする。

5. 各賞選考委員会の要望事項への対応：各賞選考規則・各賞選考委員会規則改正案 (亀高)

・小澤・柵山賞の受賞資格について、不利になる対象者が最少なくなるという条件として、「募集年の3月1日で学位取得5年以内」が示され、承認された。次回理事会に上程する。

6. 理事会審議事項の確認

①各賞選考規則、各賞選考委員会規則の変更提案

②各賞選考委員の承認

③地質学雑誌投稿編集出版規則改正案及び巡検案内書に関する細則案

④2025年熊本大会の巡検コースの提示と2026年金沢での実施の承認

⑤その他

監事コメント (岩部監事) :

学会の新ウェブサイトについては、他のサイトも参考にして、会員のみならず一般にも見やすい構成・内容にして欲しい。期待している。地質学雑誌の報告カテゴリーについては、過去に行われた議論も確認しつつ、近年盛んになっているリポジトリという方法も含め、今の時代に適したものとして検討して欲しい。地質学会の各賞の条件となる年齢についても、できるだけ不公平にならないように考えてもらいたい。

以上

2024年8月28日

一般社団法人日本地質学会
会長 (代表理事) 山路 敦
署名人 執行理事 亀高正男

預金口座振替依頼書 自動払込利用申込書(収加)

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

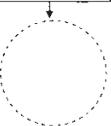
収納代行会社	SMBCファイナンスサービス株式会社	振替日(払込日)	6日・23日(金融機関休業日の場合は翌営業日)
--------	--------------------	----------	-------------------------

(フリガナ) 申込人名	申込人住所	〒	
		☎	

ゆうちょ銀行以外の銀行またはゆうちょ銀行のどちらか一方に記入して下さい。

ゆうちょ銀行以外の銀行	金融機関コード	支店コード	預金種目 (どちらかに○印)	口座番号 (右詰めでご記入ください。)
	銀行組合	本店支店	1. 普通	
		出張所	2. 当座	
(フリガナ) 口座名義人	金融機関お届け印			
法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。				

お届け印(捺印)
ゆうちょ銀行を除く



金融機関へのお届け印ですか
ご注意!

ゆうちょ銀行	(フリガナ) 口座名義人	ゆうちょ銀行お届け印
	法人の場合は、ゆうちょ銀行へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。	
	種目コード	契約種別コード
166	301	記号(6桁目がある場合は※欄にご記入下さい)
		番号(右詰めでご記入ください。)
		0※

払込先口座番号	00110-5-58830	払込先加入者名	SMBCファイナンスサービス株式会社
---------	---------------	---------	--------------------

(収納企業使用欄)

収納企業名	一般社団法人 日本地質学会	料金等の種類	会費等
契約者番号	委託者コード	顧客コード	
	18476000	000000	

- 一預金口座振替規定一 ※ゆうちょ銀行払いは除く。
- 銀行(金庫・組合)に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
 - 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額(当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。)をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
 - この契約を解約するときは、私から銀行(金庫・組合)に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行(金庫・組合)はこの契約が終了したものと取り扱ってさしつかえありません。
 - この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行(金庫・組合)の責めによる場合を除き、銀行(金庫・組合)には迷惑をかけません。

ゆうちょ銀行をご指定の場合は自動払込み規定が適用されます。

金融機関使用欄	(不備返却事由)		
	1. 預金(貯金)取引なし	3. 印鑑相違	
	2. 記載事項等相違	店名、預金種目、口座番号、通帳記号、通帳番号、口座名義	
	4. その他()		
	備考		
	検印	印鑑照合	受付印

取 扱 店 日 附 出

(金融機関へお願い)
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

不備返却先
SMBCファイナンスサービス(株)
決済ビジネス業務センター 口座振替依頼書課
〒105-8625 東京都港区新橋1-8-4 SMBC新橋ビル

裏面のりしろ①

84円
切手付
貼

101-0032

一般社団法人日本地質学会
二丁目八十一番五 井桁ビル内
東京都千代田区岩本町

氏名
住所

のりしろ③

のりしろ①

のりしろ②

裏面のりしろ②

裏面のりしろ③

線

リ

ト

リ

キ

オ リ 線

線

リ

ト

リ

キ

御 中

入会のご案内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を一般社団法人日本地質学会事務局へお送りください。
入会には正会員1名の紹介が必要で、近くに紹介者となるべき会員がいいる場合はその旨お申し出ください。また、初年度の会費は
申込書郵送時から時間の間隔をおかずに下記送金先へ速やかにご送金ください。会員としての正式登録は、入会承認後、初年度会費
の入金を確認した上で、News誌の送付(4月号から)を開始いたします。

申込書郵送先: 101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6F 一般社団法人日本地質学会
 学会費送金先: 郵便振替口座 00140-8-28067 一般社団法人日本地質学会
 ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキョウ)店/当座 0028067 / 一般社団法人日本地質学会(シ)にホシツツガツカ
 会費年額: 正会員(一般会員・シニア会員) 12,000円 ※1
 正会員(学生会員) 5,000円/年、2年パック会費額: 8,000円、3年パック会費額: 9,000円 ※2
 ジュニア会員 0円(年会費不要) ※3

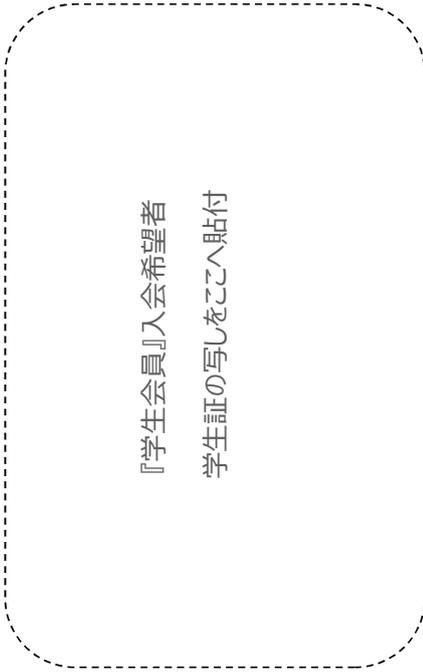
※1: シニア会員は、入会年度の4月1日時点で65歳以上のかたを対象とします(4/2以降に65歳になる方は次年度からシニア会員となります)。

※2: 学生会員は、次の2点を守って手続して下さい。①学生証の写しを提出すること。②パック制会費を希望の場合は一括納入すること。

※3: ジュニア会員は、正会員の権利は有しません。学術大会での発表はジュニアセッションに限定します。

*会員番号 *会員種別 正会員 一般 シニア 学生 ジュニア会員

* * "学会記入欄" : Official use only



一般社団法人日本地質学会入会申込書 Application form for the Geological Society of Japan

本枠内のみにご記入ください

氏名(ふりがな) Name in Japanese	ローマ表記 family name	first name
____年____月____日 Mo. Day 生born on	Sex: <input type="checkbox"/> 男 Male <input type="checkbox"/> 女 Female	Country:
学歴 Academic career:	____学校 High school ____年卒業 Year completed	
____大学 University ____学部 Faculty ____年____月 卒業(見込み) Year completed	____大学 Univ. ____研究科 Fac. ____年____月 修了(見込み) Year completed	
修士 Master: ____大学 Univ. ____研究科 Fac. ____年____月 修了(見込み) Year completed	____大学 Univ. ____研究科 Fac. ____年____月 修了(見込み) Year completed	
博士 Master: ____大学 Univ. ____研究科 Fac. ____年____月 修了(見込み) Year completed	____大学 Univ. ____研究科 Fac. ____年____月 修了(見込み) Year completed	
自宅住所 Home address: (郵便番号 Zip code	____) ※学生証の写し忘れずに添えて下さい。	
電話 Phone: _____	ファックス Fax: _____	_____
所属機関名称・所属機関住所 Affiliation with address: (郵便番号 Zip code	____) ※郵便物がきちんと届けられるよう、ご記入ください。	
電話 Phone: _____	ファックス Fax: _____	_____
e-mail Address: _____@_____	_____	
※e-mail Addressは地質学会からのメールが配信用、その他連絡用に登録します。携帯電話各社のe-mail Addressを記入の場合は登録、たしません。ご注意ください。 ※所属先(代表)の問い合わせ専用 e-mail Address は記入しないでください。		
連絡先 Correspondence: <input type="checkbox"/> 自宅 Home <input type="checkbox"/> 所属機関 Office	_____	
*受付(年 月 日)	*承認(年 月 日)	*入金(年 月 日)
		振替・現金・銀行・他
		*送本(巻 号)

(注)ご提供いただいた個人情報は、日本地質学会プライバシーポリシーに基づき適切に取り扱います。

会員情報について: 在会者に限定し、Web版の会員管理システムにて会員情報の検索・閲覧をすることができます。氏名・所属先は掲載必須項目です。下記の項目について掲載を拒否する項目には にチェックを付けてください(チェックが無い項目は掲載承継いただいたものとします)。

最終学歴 所属先学科名・部課名(掲載不可の場合は「〇〇大学〇〇学部」, 「〇〇大学〇〇社」までを必須項目として掲載)
 所属先住所 所属先電話・FAX番号 自宅住所 自宅電話・FAX番号 e-mail Address

紹介者名(正会員) _____ 印
 Recommended by (name of member) _____ Signature

(学生のかた) 希望する会費額を選択して下さい。パック制会費選択者は、該当するパック制会費額を一括納入して下さい。
 5,000円(初年度のみ) / 2年パック: 8,000円(初年度・次年度) / 3年パック: 9,000円(初年度・次年度・次年度)
 学生会員として入会希望です。学生証の写しを入会申込書に添えて提出します。

専門部会の選択(任意) 現在、下記の14の専門部会が活動しています。専門部会に参加ご希望の方は登録をお願いします。所属希望の部会を3つまで選択することができます。(該当する項目に〇印を付けて下さい)

1. 地域地質
2. 層序
3. 堆積地質
4. 海洋地質
5. 構造地質
6. 岩石
7. 火山
8. 応用地質
9. 環境地質
10. 情報地質
11. 古生物
12. 第四紀地質
13. 環境変動史
14. 鉱物資源

興味専門分野の選択(任意) あなたの興味専門分野を教えてください。3つまで選択することができます。(該当する項目に〇印を付けて下さい)

1. 層位
2. 堆積・堆積岩
3. 古生物
4. 構造地質
5. 火山・火山岩
6. 深成岩
7. 変成岩
8. 鉱床地質(金属・非金属)
9. 鉱床
10. 燃料地質
11. 燃料地質
12. 地熱
13. 第四紀
14. 環境地質
15. 都市地質
16. 土木地質
17. 土質工学
18. 水文地質
19. 探査地質
20. 土木工学
21. 情報地質
22. 地震地質
23. 海洋地質
24. 地球物理
25. 地球化学
26. 地質年代学
27. 地理
28. 地学教育
29. 考古学
30. その他
40. 地球惑星

